

目次

1. 団長挨拶	P2
2. トラジャ EX 概要	P3-P7
・発足経緯	P3
・目的	P3
・協力団体	P3-P4
・場所	P4-P5
・参加人数	P5
・日程及び構成	P6-P7
3. 日別活動報告	P8-P18
・1日目 (9月7日)	P8-P9
・2日目 (9月8日)	P9-P10
・3日目 (9月9日)	P10-P11
・4日目 (9月10日)	P11-P12
・5日目 (9月11日)	P12-P13
・6日目 (9月12日)	P13-P14
・7日目 (9月13日)	P14-P15
・Before&After	P15-P18
4. フリーテーマエッセイ	P19-P35
・『幻のトラジャコーヒー』	木下 陽介 P19
・『トラジャと僕とEx』	藤野 大樹 P19-P20
・『交流』	金元 大起 P20-P21
・『WANT～インドネシアの教育事情～』	安保 夏絵 P21
・『凄いだって～、日本文化』	儀間 真和 P22
・『T o r a j a の人々の暮らし』	月輪 光 P22
・『インドネシアの人たちっていい人多かったね』	原田 涼 P22-P23
・『動いた分だけ、意識は広がる』	小阪 早希子 P23-P24
・『死生観』	豊嶋 弘樹 P24
・『繋がり』	秋山 和俊 P25
・『トラジャの模様とトラジャ人の誇り』	森 貴大 P25-P26
・『これからの私の国際交流』	疋田 桃梨 P26-P27
・『トラジャEx、そしてExについて』	林 留美奈 P27
・『インドネシア★エトセトラ』	瀬沼 里沙子 P28
・『トラジャEx』	加藤 綾 P28-P29
・『お葬式』	武蔵 翼 P29-P30
・『トラジャの伝統家屋』	小林 実咲子 P30
・『トラジャ民族の死生観』	東 勇佑 P30-P31
・『心の交流』	岡崎 崇志 P31-P32
・『生々しさの「美学」』	梅崎 智士 P32-P33
・『必要なものとは?』	川崎 康博 P33
・『トラジャの死生観から』	池田 奈那 P33-P34
・『交通の主役はバイク』	田尻 美佳子 P34-P35
・『オンガクハイダイナリ』	藏本 司 P35
5. 文化紹介感想	P36-P37
6. メンバー紹介&ガイド紹介	P38-P63
7. 参加者ランキング&古屋 誠彦の勝手に対決させま SHOW!!	P64-P67
8. 必要な物リスト	P68

団長挨拶

あなたは「死」について考えたことがありますか？

「死ぬために生きている。」「生きるより死ぬことの方がお金がかかる。」
私たち25人が滞在したタナトラジャは、独特の死生観による、盛大なお葬式で有名なところだ。

「インドネシアと言えばバリ島。リゾート地。」
私たちはそんなところには行っていません。バリ島から国内線で1時間。スラウェシ島の空港からさらに車で8時間。タナトラジャサダン村にコンビニなどのお店はありません。

第一回目のE xのため、誰も知らない世界で、何が起こるか分からず、最初は不安でいっぱいでした。

しかし、すばらしい仲間とともに過ごす毎日はとても充実していて、考えさせられることもたくさんあり、一週間があつという間に過ぎていきました。

トラジャE xを通して、本当にいろんなことを感じました。ISAのこと、E xのこと。生と死、観光資源について、日本での日々の暮らしについて、発展途上国について。

皆さんにとっても未知の場所、タナトラジャ。私たちが経験したインドネシアトラジャE xのすべてを伝えることはとてもできませんが、この報告書を読んで、少しでもトラジャを理解し、興味をもって下されば、たいへん嬉しく思います。

インドネシアトラジャE x 01は無事終わりました。しかし、E xは「楽しかった」だけでは終われません。そして、第一回目のE xのため、改善点が多々あります。

もう一度言います。これで終わりではありません。始まりです。私たち25人は大きな初めの一歩を踏み出しました。

これからよりよい02につながるよう、みんなで改良し、インドネシアトラジャE xがこれからもずっと続くよう、土台作りをしていきます。

10年後には他のE xの様に、人気があり、安定したE xになるように。

私たち25人の今後の努力が、すばらしいインドネシアトラジャE xを作っていくものと確信しています。

北九州市立大学3回
2011 E x 部長 林留美奈

インドネシア・トラジャ EX 概要

・発足経緯

遡ること 3 年前。当時学生だった神戸支部の根津有がオーストラリアのメルボルンに語学研修に行った。彼はそこで運命の出会いを果たす。この出会いがなければ、インドネシアトラジャ Ex. は間違いなく実現していなかっただろう。そこで出会った人物がこの Ex. の発起人であり、僕たちが後にお世話になる旅行会社を経営する※1 カンプンエクスペディションズの※2 阿部嘉治さん。阿部さんは学生時代に大学を休学し、ワーキングホリデーでオーストラリアに行き、そこで現地の大学で文化人類学を学んだ経歴を持っている。

根津有が I. S. A. のことを阿部さんに話したところ、「是非 I. S. A. の学生と一緒にトラジャの共同ツアーをしたい」と思案される。そこで、根津有は日本に帰った後、当時、2009 年度の I. S. A. の会長であった高橋実希にその話を伝えた。ここから実現へ向けて具体的に動き出す。7 月、高橋は日本に一時帰国していた阿部さんと東京で会合。具体的な内容を提案され、当時の Ex. 部長である中島英子に引き継がれる。さらに、それが 2010 年当時の Ex. 部長の藤野大樹に引き継がれる。藤野大樹は「インドネシアトラジャ Ex.」が I. S. A. の Ex. プログラムとして成立させるために、当時の全国代表者会議で様々な議論を重ねる。そして、実現に向けて、ある程度の下地ができた後、2011 年度の Ex. 部長である林留美奈へと引き継がれ、彼女が内容を詰めに詰め、下見が急遽できなくなるという困難を乗り越え、晴れて 2011 年 9 月に I. S. A. の正式プログラムとなり、実現した。

【参考】

※1 <http://www.kampungx.com/jp/index.html> 「カンプンエクスペディションズ公式 HP」

※2 <http://www.kaze-culture.com/program/koushi118.html> 「風カルチャークラブ」

・開催目的

ISA、インドネシアスラウェシ島タナトラジャ県のサダン村、インドネシアキリスト教大学トラジャキャンパス、カルチャー・ツアー専門旅行社カンプン・エクスペディションズの共同企画。独特な伝統文化が色濃く息づくトラジャ地域で生活する人々とともに、ホームステイや農作業を通じてお互いを知り合い、異文化交流を深めるという目的。

・協力団体：カンプン・エクスペディションズ

カンプン・エクスペディションズはインドネシアのスラウェシ島、マカッサルに本社を持つ日本語専門旅行社。『カンプン』とはインドネシア語で『村』、『ふるさと』、『コミュニティ』という意味。私たちはインドネシアの人びとが織り成すさまざまなコミュニティで、日本のみなさまに新たな発見の楽しみを味わっていただけるよう努力いたします。(HP から抜粋)

現地サポート

- 大学との共同研究、ツアー提供（東京大学など）
- テレビ番組ガイド（『素敵な宇宙船地球号』など）
- 学術研究グループとの連携（JICA など）
- 企業のサポート（NEC、日東紅茶など）
- 阿部さんは多数の著書を発表



○マカッサル本社

PT Kampung Expeditions

Taman Telkomas

Jl. Palapa VI, No. 129

Makassar, Sulawesi Selatan, Indonesia

Phone/Fax: +62-411-582639

Mobile: +62-813-4236-7322

○オーストラリア事務所

Kampung Expeditions

P0 Box 63, Moonee Ponds

Victoria, Australia 3039

Phone: +61-3-9025-1986

Fax: +61-3-9376-4859

Mobile: +61-400-771-232

○Email: info@kampungx.com



・場所：トラジャ

①気候・立地

タナ・トラジャとはトラジャ語で「山の人の国」を意味する。スラウェシ島中部から南部に及ぶ標高 1000 メートル以上の山岳地帯にあり、熱帯といえども涼しくたいへん過ごしやすい気候である。しかし、山岳地帯のため雨季・乾季問わず降水量は多い。このような気候は日本の農村と類似点が多く、日本の田舎のような棚田や山に囲まれた山村がみられる。また世界有数のコーヒー栽培に適した気候である。立地としては、スラウェシ島最大の都市 Makassar から約 330 km だが、現在は道路が整備されているので車で約 8 時間で行くことができる。しかし、そこから奥地へ入る交通手段は限られ、殆ど徒歩となり、今なお文字通りの秘境である。

②民族・風習・宗教

トラジャ族の総人口は 65 万人 (2007 年)。トラジャ族は、複雑で壮大な葬儀の形式や、岩の断崖へ死者を埋葬する習慣、トンコナン (tongkonan) の名で知られる、尖った巨大な屋根を備えた伝統的な家屋の様式、富の象徴である水牛の角のディスプレイ、カラフルな木彫り細工などで知られる。彼らの葬儀は、通常規模でも数百人の参列者が出席し、数日間続く社会的に重要な行事とされている。宗教は 80%以上がキリスト教で、残りはイスラム教やヒンドゥー教である。

③トラジャと観光

トラジャは日本での知名度が高いとは言えないが、オランダやフランスを始めとする欧米諸国では人気の観光地であり、3 番目に有名なスポットである。20 世紀以前、トラジャ族は自治権を持ち、アニミズムを信奉し、外界とは隔離された村で生きていた。1900 年代初頭、オランダ人宣教師がキリスト教の布教目的に村を訪れたのが、外来者との接触を持った最初の例となった。1970 年代には、タナ・トラジャ県はインドネシア観光の目玉となり、村は外界へ開かれた。こうして村は、旅行の企画に組み込まれたり、文化人類学者たちの研究材料になるなど、その環境は大きく変化した。1990 年代までにタナ・トラジャ県

観光はピークに達し、トラジャ族の社会は激変した。アルクと呼ばれるアニミズム信仰に基づく共同社会や習慣を基盤とした農村社会から、キリスト教的共同体へと変貌し、伝統の社会構成にも変化が訪れたと言われている。

参考文献

ウィキペディア

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%88%E3%83%A9%E3%82%B8%E3%83%A3%E6%97%8F>

タナ・トラジャ

<http://www5d.biglobe.ne.jp/~makassar/up/toraja.html>

・参加人数 25 名

支部内訳：東京 1 名、京都 1 名、大阪 3 名、神戸 15 名、岡山 2 名、九州 2 名、個人 1 名

学年内訳：4 年 6 名、3 年 12 名、2 年 7 名

男女比：男 15 名、女 10 名

	名前	支部	大学	学年
1	林留美奈	九州	北九州市立	3
2	藤野大樹	神戸	関西学院	4
3	瀬沼理沙子	岡山	岡山	4
4	原田涼	岡山	岡山	3
5	秋山和俊	神戸	神戸	4
6	川崎康博	神戸	関西学院	2
7	加藤綾	京都	同志社	4
8	田尻美佳子	個人	長崎県立	2
9	小阪早希子	大阪	関西	3
10	小林実咲子	神戸	神戸女学院	2
11	月輪光	神戸	関西学院	4
12	武蔵翼	大阪	関西	3
13	岡崎崇志	神戸	甲南	3
14	梅崎智士	神戸	関西学院	3
15	儀間真和	九州	北九州市立	2
16	東勇佑	神戸	甲南	3
17	森貴大	神戸	関西学院	4
18	疋田桃梨	大阪	関西	3
19	安保夏絵	神戸	神戸女学院	2
20	蔵本司	神戸	関西学院	3
21	豊嶋弘樹	東京	立教	2
22	古屋誠彦	神戸	神戸	2
23	木下陽介	神戸	関西学院	3
24	金元大起	神戸	関西学院	3
25	池田奈那	神戸	関西学院	3

日程および構成

2011 年 9 月 7 日 (1 日目)

Makassar 空港で現地スタッフと合流
→木製の船で有名な港 Paotere へ
→現地のレストランへ
→高校を訪問。900 人の生徒の前に
→Hasanuddin 大学で日本語を勉強している学生と合流
→Fort Rotterdam(ロッテルダム要塞)へ
→Losari Beach へ移動しサンセットを楽しむ
→現地のレストランで夕食
→ホテルで宿泊

2011 年 9 月 8 日 (2 日目)

ホテルで朝食をとった後、ホテルをチェックアウトし Toraja へ移動開始
→移動途中、Parepare にて現地レストランで昼食
→昼食後、Lakawang 丘で 2 時間休憩
→2 時間 30 分かけて目的地 Sadan 村へ移動
→Sadan 村の人々による Welcome ダンス
→トンコナンにて宿泊

2011 年 9 月 9 日 (3 日目)

朝食後、高校を訪問
→キリスト教大学トラジャキャンパスの学生 12 名と交流
→現地のレストランで昼食
→昼食後、Lemo 村を訪問。石墓（お墓）を見学
→Londa 村を横穴式のお墓と副葬品である TauTau 人形を見学
→Saddan 村に戻る
→トンコナンにて夕食および宿泊

2011 年 9 月 10 日 (4 日目)

朝食後、結婚式の会場へ。結婚式見学
→現地のレストランで昼食
→昼食後、横穴式のお墓 Tampang Allo を訪問
→その後、Sangalla の孤児の学校にて Bamboo Music を聞き、一緒に歌を歌う
→夕食の支度のために Sadan 村に戻る
→トンコナンにて宿泊

2011 年 9 月 11 日 (5 日目)

朝食後、伝統的な市場である Boli 市場を訪問
→Tinimbayo を訪問。千枚田（水田）を見学
→現地レストランにて昼食
→Batutumonga 村、Boli 村を訪問
→石墓とメンヒル（巨石記念物）を見学
→Saddan 村へ戻りサッカーやバレーボール
→池田奈那生誕 22 周年記念パーティー
→トンコナンにて夕食および宿泊

2011 年 9 月 12 日 (6 日目)

朝食後、Movie 撮影会

→車と、徒歩 2 ㎞を歩き、お葬式の会場へ

→お葬式見学。豚や水牛を生贄にする儀式を見学。

→昼食は現地のレストラン。

→昼食後、有名なトアルココーヒーの事務所へ。

→サダン村へ戻り、男子はバッファローの餌をとり、餌やり。女子はイカット（機織り）。

→トンコナンにて夕食および宿泊

2011 年 9 月 13 日 (7 日目)

朝食後、各自自由に。

→一部の人でフェアウェルパーティーの買い出しのため市場へ

→昼食はお弁当

→昼食後、村の子どもたちと遊び、豚の解体見学

→フェアウェルパーティーの準備開始

→カレー、おにぎり、スイーツパーティー。日本の歌やダンス披露

→ISA のみなさんに村のリーダーからプレゼント

→トンコナンにて夕食および宿泊

2011 年 9 月 14 日 (8 日目)

早朝 5 時に起き、6 時に Makassar 空港に向けて出発

→Lakawang 丘で休憩

→Parepare にて現地レストランで昼食

→昼食後、Makassar 空港へ

→Makassar 空港から Denpasar 空港へフライト。

→解散し、各自帰路やアフターへ。



トラジャ EX 日別報告

1 日目（9 月 7 日）

木下 陽介

9 月 7 日マカッサル。砂埃をあげながら走る車、その隙間を縫うようにして進むバイク。身体を刺すような太陽の光、そしてそれに負けないほどパワフルな高校生や大学生の笑顔。見るもの触れるもの、出会う人々などすべてが新鮮で刺激的。日本を離れて 2 日、ついに Ex が始まりました。英語がなかなか通じない高校生との交流では、とにかくジェスチャー。身体で伝えるってこんなに難しかったかな。と少し心が折れそうになったとき、ふと相手をみてみるとその顔は真剣そのものでした。相手も必至で何かを読み取ろうとしていると気づいたその後は、本当に有意義な時間を過ごすことができました。ハサヌディン大学の日本語専攻学生との交流。何かを得ようとする彼らの姿勢には圧倒されました。辞書を片手に会話をしようとする学生や話すのが苦手でも単語を一つ一つ思い出しながら話そうとする学生。中には後日、Facebook のメッセージで日本語の使い方や意味を質問してきた学生もいました。彼らのひたむきな姿勢に僕らがしっかりと答えてあげることができたのか、この問いに対し自信をもって「はい」とは言えない心に残る交流でした。

今回の Ex ではこちらが何かを用意し、相手に伝えるという表面上では一方向の交流が中心でした。そこにたしかにあった双方向の交流。本当の異文化交流ってこういうことだったんだ。そう気づけた 1 日目でした。

1 日目（9 月 7 日）

豊嶋 弘樹

マカッサル空港でカンブリエクスペディションズツアーガイドのマルセルさん、サリーさん、バーバラさんに迎えられ、バスに乗り込みマカッサルをまわりました。まずは、マカッサルの漁港に向かいました。マカッサルは漁師の街です。地元の人の生活を目で見ることができました。次に、地元の高校生と交流しました。折り紙の鶴のレクチャーと、岡山のうらじゃ踊りを披露しました。私を含め、鶴の折り方を知らないメンバーが多くみられました。事前に確認しておく必要を感じました。またうらじゃは皆で輪になって一緒に踊ることができる交流にはもってこいの踊りですが、ここで披露した際は、踊りの最中に急に手をつながれた学生たちが戸惑ってしまい、高校生たちをうまく踊りに巻き込むことができませんでした。午後は、日本語を勉強している大学生と交流をしました。バス班に分かれて鶴のレクチャー、日本の遊びのレクチャーをしました。私の班では花いちもんめをしました。私自身がルールを理解していなかったので教えるのが大変でした。そのあと、ロッテルダム要塞を見学しました。戦争時に爆撃を受けた建物など戦争時の爪痕が残されていました。夕方にビーチでサンセットを見に行き、EX1 日目の活動は終了です。地元の学生たちとの交流を通していくらか課題を発見することができました。

1 日目（9 月 7 日）

古屋 誠彦

木製の船で有名な町パオテレへ行きました。

パオテレでは実際に燃料の運搬に使われている船の中を見学させてもらいました。船のなかにはラマダン明けで休暇中の船員さんたちが休んでいました。

船のなかでサリーさんがインドネシアの「キラキラ」という言葉を教えてくれました。

「だいたい、おおよそ」というような意味らしいです。そしてインドネシアではなんで

も「キラキラ」で考えることが多いそうです。たとえば昔の人は自分の生年月日を正確に覚えていないらしく自分は大体70歳くらいと言うらしいです。また集合時間でも「キラキラ4時」などどいって2時間遅刻したりするのは当たり前らしいです。

船を見学したのち高校と大学へ学生と交流しに行きました。高校でも大学でも日本のアニメが大好きでいつも友達とコスプレをして楽しんでいると言ってくれる学生や日本の文化が大好きで技術も尊敬していると言ってくれる学生がたくさんいました。僕たち日本人は日本のことをそのように思っている人たちがいることをもっと自覚して誇らしく思うべきだし、これからもそう思ってくれるように頑張らなければいけないと思いました。

2日目（9月8日）

疋田 桃梨

マカッサルで一夜を過ごし、私たちは舗装されていない道をバンに揺られて進んだ。バンの横ぎりぎりを走るバイクや車に改めてドキドキしながら通り過ぎる景色を見ていた。カラフルな住宅や時々見かけるムスクが日本とは違い、とても印象に残っている。昼食は綺麗な海や山の見えるレストランで取った。ナシ、焼き魚、フライ、野菜炒め、ミーゴレン、エビの炒め物、サテ、モンキーバナナ…次から次へと出てくる料理に驚愕しながら、道中に同乗したガイドのサリーちゃんが日本滞在中に日本の一回の食事量が少なく辛かったと言っていたのを思い出し「そりゃ、この量ならそう感じるわな」と思った。昼食後はまた山道をひた走り、岡の上の休憩所に着いたのは2時間ほど経った頃だ。絶景を目の前に、そこで紅茶とカリントウを食べながら一息付き。そしてまた走り出した。大小のトンコナンが見え始めると「やっとトラジャに來たんだな」という実感が溢れ出してきた。バンが停まったのは大きなトンコナンとアランが並ぶ芝生だ。長いバン移動で痛む身体を伸ばして一息付いていると小雨の中で、赤や黄色の綺麗な民族衣装を来た女の子たちが円になって踊り始めた。手を蝶々のようにひらひらさせながら、小刻みに足踏みをし、民族衣装の裾がさらさらと揺れるのが本当に綺麗で、移動で疲れた心を癒してくれたように感じた。その後夕食を頂き、文化紹介の練習を嫌というほどやって就寝。右も左も分からない、言葉もわからず、想像もできないトラジャでの生活に期待で胸が一杯な2日目だった。

2日目（9月8日）

月輪 光

「ドンドンドン!!」ホテルの部屋のドアを激しく叩く音で目が覚めた。ドアを開けると、きのぴーがいる。「バス来てますよ。笑」いわゆる寝坊である。ホテルを朝7時に出発して、マカッサルからトラジャ族の住むサダン村へ、6人乗りのバン5台で向かった。マカッサルは都市部であるため道は舗装されており、乗り心地は良かった。2時間ごとに休憩をとり、昼食を景色のいいレストランでとる。モスクの音楽がどこからか聞こえ、イスラム圏であることに気づかされる。さらに数時間、山岳地帯を進んでいき、パレパレという場所のカフェで休憩をとった。山の斜面に飛び出すように作られており、正面に山、右に山、左に山という、空気・景色ともにとてもきれいな場所であった。このあたりから道もところどころ舗装されていない通りになり、激しく揺れることが多かった。途中、スコールも起こり山特有のとても変わりやすい天候であった。夜の8時ごろ、現地に到着し、歓迎のコーヒーを頂き、女の子が現地の踊りを披露してくれた。興奮冷めやらぬ中、重い荷物をトンコナンへ運び、眠りに就いた。トラジャExがついにスタートした。

2日目（9月8日）

岡崎 崇志

前日の文化紹介練習の疲れが残る中、朝早く起きて朝食をとりました。今日からとうとう今回のEXの目的地であるトラジャへ行きます。マカッサルからトラジャまでは8時間かかるらしいので、朝から入念にお腹の調子を整えてバンに乗り込んだ。舗装されていないでこぼこ道に揺られながら、車内ではガイドのサリーちゃんと談笑。ドライバーはF1レーサー並みのオーバーテイクを繰り返しながら田舎道を猛スピードで駆け抜けて行きました。途中バイクやトラックと何度かぶつかりそうな場面があったためにひやっとしたがインドネシアではこれが普通らしい。四時間くらい経過し、昼食をとるレストランで休憩した。海や町を見下ろすことができるレストランで、町ではイスラム教のお祈りがスピーカーから大音量で流れており、まさに異国の地に来た感じがした。料理は相変わらずのナシゴレン、ミーゴレン。おいしかったがお腹が…。その後、私は腹痛との激闘に敗北し夜7時 SADAN 村到着。村の人の Welcome ダンスやトンコナンにみんなのテンションも最高潮。すぐに夕食を頂き、私は明日から始まるトラジャでの日々に期待を膨らませながらトンコナン…ではなく腹痛のために民家のベッドで就寝した。

3日目（9月9日）

武蔵 翼

今日は朝からサダン村にある学校に行きました。そこで、教室にお邪魔して学生と交流。トラジャ語もインドネシア語も分からないから、始めは大変だったけど、英語が分かる先生に通訳をお願いして何とかコミュニケーション成功。その後校庭で文化紹介。ソーラン節の掛け声がおもしろかったのか、生徒は爆笑。最後は一緒になって掛け声を言ってくれた。中学生との交流会のあとサダン村に帰ると多くの学生がスタンバイ。折り紙と一緒に折ったり、テコンドーを教えてもらったり、お昼ご飯も一緒に食べた。トラジャの学生はシャイだったけど、最後は打ち解けてくれてよかった。日本もそうだけど、島国の人はやっぱりシャイだなと思いました。

お昼のあと、大学生とは別れて、Lemo 村と Londa 村に行き、それらの村でお墓を見学。Lemo 村のお墓は岩山に穴を空けたものがお墓になっていました。その高さで故人の階級が分かるようになっていました。トラジャは昔階級社会とは聞いていたけれど、本当だったと実感しました。そのお墓の下にトンコナンに似た形の置物が置かれていました。それは、日本でいう霊柩車みたいなものらしい。しかし、使いまわしではなく、一人ひとり専用のものを作るらしい。トラジャのお葬式はお金がかかるとは聞いていたけど、本当にかかるんだと思いました。学校訪問に村見学といろいろした一日でした。

3日目（9月9日）

原田 涼

9月9日、3日目、晴れ。おいしい朝食をとり、昨日の雨が嘘のように晴れ渡った快晴の空のもと気持ちの良い朝を迎えることができました。この日はまず現地の学校を訪れました。車班ごとに分かれて教室を訪問して自己紹介をしたり、かるく遊んだりしました。その後中庭に全員集合して日本人側からダンスを披露しました。この日はソーラン節とヘビーローテーションを踊りました。向こうの学生たちはソーラン節の「どっこい、しょー」などの掛け声が気に入っていたみたいです。

トンコナンの方に戻り、次はキリスト教大学トラジャキャンパスの学生と交流しました。ここでも先ほどの班に分かれ各自日本の遊びで大学生と仲良くなりました。折り紙を教え

たり、手つなぎ鬼をしたり、だるまさんが転んだをしたり、とても有意義な時間を過ごすことができました。お昼ご飯はそのまま大学生と一緒に食べました。

それからトラジャの伝統的なお墓を身に LEMO 村という村に行きました。ここではガイドのサリーちゃんにお墓の説明やお葬式で水牛を殺す意味など、さまざまなことを教わりました。タウタウ人形という人の形をした人形や、本物の人骨など迫力あるものがたくさんありました。そこから、別のお墓を見るために Londa 村という村に移動しました。横穴式の洞窟のようなお墓を見学しました。サダン村に帰り夕食をとり、トンコナンにて就寝しました。

3 日目 (9 月 9 日)

池田 奈那

朝食を食べて、中学校へ。文化紹介としてソーラン節と「心の友」「会いたかった」を発表。午後からはレモ村とロンダ村を訪問し、墓地を見学。

まずレモ村では崖に作られたお墓を見学。絶壁の崖には 30 cm 四方の穴があり、木の扉で蓋をされている。入口は小さいが、中は 2×3m、大きければ 6×7m もあるものもある。手で掘るというから驚きだ。トラジャ文化には王族・貴族・平民・奴隷の 4 つの階層があり、お墓が上にあればあるほど、右にあればあるほど身分が高いことを示す。傍にはタウタウ人形があり、レモ村にあるものは 300 年以上前のものであった。墓の数と人形の数的一致しないのは、観光客によって盗まれたことが大きな原因となっている。タウタウ人形には本物の金の指輪、歯などの装飾品が施されていることが多く、また貴重な文化財でもある理由から、金品窃盗や博物館に寄贈する目的などで昔はよく盗まれたそう。腕がないものもあるが、それは劣化によるものである。一方ロンダ村では洞窟のお墓を見学。崖に掘られた墓もあるが、洞窟は墓穴を掘る財力のなかった平民や奴隷の墓である。たくさんの棺桶が無造作に積まれ、人骨がそのまま晒されている状況であった。

村に帰ると、バレーボールやカードゲームをした。現地の人との交流の時間は、現地の文化、人や生活に触れることのできる非常に貴重な時間である。

4 日目 (9 月 10 日)

小林 実咲子

この日は朝からあいにくの雨で予定していた川で洗濯ができなかった。しかし地元の県知事の娘さんの結婚式があるということで見学に行った。日本と違いもちろん外。トンコナンやアランが並び、かなりたくさんの席が用意されていた。イスラム教の結婚式でズボンは最低でもひざ下、席も男性が前に座するという決まりがあった。会場に着いてからの 2 時間ほどの待ち時間もステージで誰かが歌っていて賑やかだった。出された食事はパラパラのナシ(米)やら水牛やら。お肉はやわらかくて美味しかった。いっぱい食べられて幸せ。最後に新郎新婦との握手会(?)を終え、まさかの昼食をとりにレストランへ。その後たくさんの人骨や棺が並べられている横穴式のお墓 Tampang Allo を見学。間近でリアルな TauTau 人形や大量の人骨を見たのが印象的だ。開けた洞窟のようで明るかったのでよけいに神聖な感じがした。次に Bamboo Music を見に小学生ぐらいの子供たちが暮らす孤児院を訪れた。竹笛の音色はボワンとした低音で心地よかった。みんなで「幸せなら手を叩こう」を歌ったりうらじゃを踊ったり楽しく有意義な時間を過ごせた。先生もマルセルとは違ったタイプのキャラの濃さでとても人徳のある人だった。家に帰ったら夕食を食べて、いつものようにみんなでワイワイ…といきたかったがこの日はすぐにトンコナンで意識を失った。

4日目（9月10日）

安保 夏絵

9月7日雨のち曇り。残念ながら川での洗濯の予定は無くなってしまったが、午前中は何と全員で結婚式に参加することになった。色とりどりの衣装をまとった参列者に華やかな新郎新婦。閉鎖的な婚儀を予想していたけれど、私たちは彼らと握手までさせて頂くことができた。歌班のメンバーはステージの壇上に上がり、『心の友』を唄った。いつの間にか結婚式日和の空になっていた。昼食を済ませた後、私たちは Tampangallo にて洞窟の中を通りお墓へと向かった。TauTau 人形がとても印象的で昨日とは少し雰囲気違った気がした。その後、本当に楽しみにしていた Bamboo Music を聴くことができた。Welcome Song やインドネシアの国歌、祈祷の歌などの子供たちによる演奏を聴いた後、踊りや芸が始まった。インドネシアにも「幸せなら手を叩こう」があるらしく、交互に歌ったりもした。最後にみんなで岡山の伝統的な踊りである「うらじゃ」を楽しく踊ることができた。こどもたちの笑顔が見れて本当に良い一日だった。

4日目（9月10日）

小阪 早希子

朝起きると、どんよりと灰色の雲が空を覆っていた。昨日から楽しみにしていた川での洗濯は、雨のため残念ながら中止。それでも、楽しく過ごせるのがこのメンバーのいいところ。各自が思い思いに余った時間を過ごしていたのが印象的だ。

その後は村から少し離れたところにある素敵なレストランで昼食をとった。周り一面が田園風景。日本の田園とは似て非なるものではあるが、どこか安心感を覚える。料理はというと、4日目にしてトラジャ料理の定番を食べ尽くした私達を唸らせるほどのものではなかったが、レストランにいた子猫がかわいかったのでよしとする。朝の雨とは打って変わって、午後からは快晴。横穴式のお墓を訪問した。まるで『となりのトトロ』に出てくるかのような穏やかな小道をみんなで楽しく進んでいくと、そこに待っていたのは入口を豊かな緑で覆われた洞窟だった。洞窟というよりは、山がぱっくりと口を開けているといったイメージの空間。洞窟の中には骸骨、人形、棺桶……。しかし、不思議と怖くはなかった。トラジャ人の死生観というものを垣間見た気がした。夕方からは地元の子供達がバンブーミュージックを披露してくれた。シンプルな楽器で一生懸命演奏する姿には少々胸を打たれた。お礼に私達は”うらじゃ”を踊った。みんなで輪になって踊るのはやっぱり万国共通。笑顔溢れる文化体験でその日は締めくくられた。

5日目（9月11日）

秋山 和俊

「シャーッ」。トンコナンの屋根から聞こえる音で目が覚めた。今日は小雨のようだ。今日の予定は、市場と棚田見学。車で市場の近くに到着し、雨の中、水溜りの泥をズボンに散らしながら市場へ入った。コーヒー、見たことのない香草、肉が混じった独特な匂いが僕たちの鼻を歓迎する。ナマズ、コイ、熱帯性の口の細長い魚など日本の市場では見慣れない魚を沢山目にした。そして、豚と水牛の市場は命の生々しさを感じられる場であった。竹に縛られた豚は最後の力を振り絞り、必死で叫ぶ。子供が水牛を引っ張ったり、トラックの下で雨宿りをしていた。その子供は午前中に市場で働き、午後に学校へ行くという。豚の叫び、生活のために働く子供。市場はまさに命の取引の場のようなのだ。次は、延々と続く山道を抜け、棚田の絶景スポットへ。10秒間に水牛を何匹見つけられるかゲームで誰も1匹も見つけられなかったほど遠くから見ても果てしなく続く棚田であった。サダン村へ帰り、りことみーちゃん、なつーの誕生日プレゼントを買いにこっそり市場

へ。車で村から出るとき、織物屋で買い物するなっつーに見つからないように車の中でしゃがみ、無事見つからず脱出完了。市場でケーキと T シャツをゲット。晩御飯中にサプライズで誕生日パーティーをした。折しも、朝の市場で命の生々しさ感じ、22 年間生き抜いたという誕生日は偉大であることを知った。誕生日の捉え方が変わった瞬間である。

5 日目（9 月 1 1 日）

田尻 美佳子

トラジャ・サダン村での生活も今日で 4 日目。朝食はナシ（ご飯）と竹で包んだココナッツ風味の粽のようなもの、それにバナナの揚げ物に紅茶。朝食をとった後、車でランテパオの町のボル市場を訪問。あいにくの雨で履いていたクロックスも泥水にまみれて大変だった。そこでは、トラジャコーヒーを量り売りしていたり、数多くの種類の野菜や果物、お菓子などが売られたりしていた。しかしこの市場には他の市場と違う点がある。それは 6 日に一度水牛マーケットが開かれること。食料品や衣類等以外に葬儀供物の水牛・豚等も売買される。農耕用よりも祭礼用として飼育されているということで丸まると太っている牛がたくさんいた。水牛は大きさや色、バランスで値段が変わる。斑文様の牛が高価とか。豚は逆に斑文様の方が安い。この日は丁度その日で非常に賑わっていた。そのあとは千枚田、石墓とメンヒルを見学、石柱が並ぶ葬儀場を見た。このメンヒルは、地元の有力者が亡くなった際に、葬儀に関わる儀式で使用されたという。そういえばここで樹になっているカカオのまだ熟していない果実を食べ、ガイドのバルバラさんに叱られた笑。ここに住んでいた人勝手に取って食べてごめんなさい。そしてサダン村に帰ったあと、なっつーさんの 2 2 歳を祝う誕生日パーティー！！ちょっぴり塩味のトラジャのケーキを食べながらみんなでわいわい盛り上がりしました。

5 日目（9 月 1 1 日）

藏本 司

朝一、3 度寝したあげくきの P に起こされる。最近あちこちで寝起きの悪さが評判らしい。りこさんによる振り分けで平凡班（るみな ななねえ だいきさん あにき）に配属され車で移動～車内ではクイズイントロドン！なっつとだいきさん妙につよし。そして市場へ。ものすごいローカルな感じの市場でにおいがきつ（>ω<）ぶっちゃけ体調復活して間もない時期だったのできつかった！特ににおいがきつかったのは水牛市場。無効では水牛が特別な意味を持つためわざわざ専用の市場まで存在していた。ガイドのマルセルがそれぞれの水牛の値段やその意味について教えてくれた。やはりここでの生活に「水牛」というものは重要なものらしい。ただこの話を聞いているとき体調はすでに限界。車に戻るとぐったりだった。昼は見晴らしのいいレストラン。抜けるような青空とタナトラジャマンがとってもすてきだった～。よるはなっつの誕生日！サプライズのためみんな事前になにもいってなかったのがよほどこたえていた様子だった。申し訳ない m(・・)m この日は復活初日で厳しい日ではあったけど、みんなの心遣いがとっても心にしみた日でもあった。私がまともにご飯を食べられるようになったのはこのもう少し後。皆さんには本とお世話になりました！！！！！！！！！！

6 日目（9 月 1 2 日）

東 勇佑

9 月 12 日、この日はお葬式があるということで約 1 時間近くかけて車と徒歩でその式場に向かいました。お葬式は黒い服装を身にまとわないといけないので私たちは黒い T シャツを着て参加しました。トラジャのお葬式は故人が死に至ってから 5 カ月～1 年長い場合

は3年ほど経過して行うのが普通で約1週間近くするそうです。そしてトラジャの人々はお葬式が行われてから故人が死んだと認識するそうです。

このトラジャのお葬式は日本のお葬式とあらゆる点で違うのですが、大きく違う点が1つあります。それは、生け贄です。水牛と豚を生け贄に捧げます。それらを生け贄にすることで水牛や豚の霊に乗ってプヤ（魂の地）に早く行けると考えているみたいです。最終的に水牛は12、3頭ぐらい、豚はその数以上を生け贄に捧げるそうです。

私はこの日のお葬式で、世界には日本とは違う死のとりえ方、考え方があるものなのだと感じました。

6日目（9月12日）

金元 大起

この日は葬式があった。ゴツゴツしているが整備されている山道を登っていく。少しすると開けた場所に出た。田んぼだ。もう収穫の時期は終わっている。葬式は農閑期に行われる。その田んぼの細い脇道を歩いていくとなにやら音楽が聞こえてきた。村に到着したようだ。村の入り口で目に飛び込んできたのは、豚の調理風景と逆さにされて運ばれる豚だった。それを後目に村の中心へと向かった。そこには大勢の人々が集まっていた。僕たちは一つの家へと案内された。そこには多くの観光客がいた。みんなもこの異様な雰囲気を体験しにきたようだ。僕たちがそこで待っているとまた違う場所へ案内された。理由を聞いたら僕たちの着ている黒服が哀悼の意を表すると受け取ってくれそれに答えてくれたとのこと。その間、喪服を着た人々が哀悼の意を表すため生け贄となる豚や牛を連れて何組か来ていた。まさに異文化だった。横たわる紐で括られて暑さで叫ぶ豚。写真を取る外国人。日本の葬式では絶対考えられない騒々しさだった。そして、故人を入れた棺が運ばれてきて悲しみの声が聞こえてきた。それから生け贄の儀式が行われた。儀式的な畏まった雰囲気はなかった。僕は殺されることに対して胸の高鳴りはあったがほとんど無感情だった。というより死んだ人への哀悼が大きかった。これが葬式なんだと感じた。そこには、生と死があった。人は死を感じなければならないと思わせるものがあった。

6日目（9月12日）

儀間 真和

EX6日目、とうとう葬式をみる日がやってきた。車で1時間ほどかけて葬式の会場に到着。そこからまた30分弱歩いてやっとのことで目的地の葬式場についた。トラジャでは、葬式場を各々の家庭が持っているとのこと。そこも日本の葬式のスタイル違っており、トラジャ族の死生観と少しかわりがあるのではないかと私は思った。けど、トラジャも日本と同様に葬式は長男が中心となって葬式をとりしきる。だが違う点があり、それはいくら下の兄弟がお金を持っていようが、長男にお金がなければ葬式は行わないこと。だから盛大な葬式を行うトラジャでは葬式も長男の財力にかかっている。葬式場につくとまず目に入ったのが竹で両足と背中をつるされた豚、その豚を丸焼きにしている人々。あちらこちらから、豚の鳴き声がする。実にうまそうだ。少し上ると今度はびっくりするほどの人がいる。やはりトラジャの葬式は勉強会でも聞いてた通り、盛大にやるものらしい。ちょうど私たちが到着したころには葬式がはじまっていた。黒い洋服を着た人が列をなして歩いている。しばらくすると、故人の棺が運ばれてきた。ここで驚いたのが、トラジャで死ぬこと＝いいことという考え方と聞いたが、棺にそばでは号泣している身内の方々。そういう死生観を持っているとはいえやはり世界共通で身内がなくなるというのは悲しいことだ。その棺が運び終わると、とうとう水牛を生贄にする番がやってきた。水牛は暴れることも泣くこともなく会場の真ん中にやってきた。すると飼い主がやってきて水牛の首のなたをいれる。この時ですら、水牛は暴れることなく逝った。自分の運命を悟って抵抗し

なかったのかどうかは水牛にしかわからない。水牛の死をみとどけて私たちの葬式見学は終わった。

7日目（9月13日）

林 留美奈

トラジャ滞在最終日。E x長として、団長として、朝から色々なことを思い返した。雨で予定がつぶれ、一部の女子でプレゼント作り。本当に終わってしまうのか。

夕方からさよならパーティーの準備。みんなは豚の解体を見に、私は70人分のカレーの下準備のため持参したピーラーで野菜をひたすら剥いた。そしてさっき解体したばかりの豚肉登場。普通に分厚い皮や毛がついている。皮から身を切り離すのに3人がかり。日本で豚肉を当たり前のように食べすぎているなどと思った。みんな来て、おにぎりとかカレー作り。続々と人集まってきてさよならパーティー。あいにくの雨。両国の料理を楽しみ、私たちの文化紹介。ソーラン！ハレハレ愉快！マルモリ！うらじゃ！心の友！ヘビーローテーション！未来へ！空手！テコンドー！歌舞伎！村の人たちがとても喜んでくれた。翌朝早く出るということもあり、9時過ぎにパーティーの締めくくり。ガイドの3人にプレゼントを渡すと、村長さんより、木彫りのトラジャの絵とイカットプレゼント！喜んでいたら参加者のみんなから私に色紙のプレゼント。こんな団長についてきてくれたみんなに本当に感謝。このメンバーで良かった。一部でヤシ酒やビール飲みながら話して12時ごろトンコナン戻るとみんな寝ていた。明日5時にみんな起きれるのかな。起きたくないな、起こしたくないな。だって夢の日々が終わってしまうのだから。

7日目（9月13日）

森 貴大

午前中はサダン村に残るメンバーと市場へ買出しに出るメンバーとに分かれた。自分は買出しメンバーになった。車で30分ぐらいの所に市場はあった。夕食係を中心に夕方から始まるフェアウェルパーティーのための食材調達が主な目的だった。夕食の献立はカレーライス。にんじん、たまねぎなどなど、店を回って買い物終了。午後1時には村に帰った。昼食は弁当だった。ちなみに自分にはインドネシア料理が口に合っていて、なんでもおいしく頂けた。3時頃からパーティーの準備にとりかかった。日本メンバーはカレーライスとおにぎりを作った。村の人は豚を2頭さばいてバーベキューを振るまってくれた。豚の解体の様子も見た。夕方からは雨模様。そんな中パーティが幕を開けた。日本メンバーはダンスや歌を披露した。個人的に自分は歌舞伎を披露した。スイパも兼ねてパーティーはすごく盛り上がった。宴の最後は、マルセルさん、サリーさん、バーバラさん、そしてるみなに感謝の想いを伝え、夫々から又サダン村の村長さんからお言葉を頂いた。るみなは「これからが始まり」と言った。サリーさんもマルセルさんも「これから」とおっしゃった。短いE xをまさに終えようとしていたこの日に、自分の中に残ったものは「もう終わりかあ」というような感情じゃなく、「これから」をどう考えるかどう行動するか。そしてトラジャE xのこれからの繋がっていく様を想像して、なんか泣けてきた。

7日目（9月13日）

藤野 大樹

連日のヤシ酒が心地よく体の中に残る中、目が覚めたのは9時過ぎ。起き上がり、トンコナンの外を覗くと水の匂い。トラジャの地へ来てはや7日。これがこの地を知るのに十分な時間なのかは僕には分からない。ただトンコナンをバックに降り続く雨は神秘的だ。降り続く雨にさえ独特の生死の世界観が宿っているようだ。山の天気は変わりやすい。か

つての祖先はこの雨を求めて海からやってきたのかもしれない。そんなことを夢うつつのまま空想し、全力で別の宿舎に向かって走った。と同時に神々しい雨を大量に浴び、まどろみの中からふと現実に戻った。僕は気づく。今日、この旅が終わるのだと。

今日の唯一の予定は別れの宴。ランテパオでタマネギ、ニンジン、ニンニク、ジャガイモを買い揃える。宿舎に戻り、夕食の準備に取りかかる。その前に、カレーの肉を調達しなければならない。豚の肉だ。ここでは豚の肉の調達＝豚の解体といえる。解体方法は人間でいえば、左脇にナイフを突き刺し心臓を一撃する。そして血を抜く。数秒で豚は果てる。好奇心旺盛なメンバーはその光景に釘付けた。

日も暮れ、別れの宴が始まった。最後の夜といえば普通はどんな気持ちになるだろう。悲しさか。寂しさか。ここは異国の地「トラジャ」。不思議なものだ。寂しさや悲しさという感情と同時に絶えずある情動が僕の全身を奮い立たせる。それは神秘的で人知を超えた何かだ。超言語的とも言おうか。最後の夜。生と死の雨は依然とこの地に降り注ぐ。

Before

瀬沼 里沙子

台風の中、飛行機が飛ぶ確証もなく関空に集合したあや&りこ。進学できない（かもしれない）女と就職できない（かもしれない）女のダメ女二人旅の始まりだ。先に言っとくが、ノープランだ！深夜の関空で腹ペコな二人はどん兵衛をいただき、離陸ギリギリに機内に滑り込み出国した。予想外に配られた夜中の機内食。しかも二回。お腹一杯でも「モト取るぜ系女子」な私たちはクロワッサンをお代わりしまくりタイに到着。トランジットの時間なんてものともせず、空港内を暴走した挙句疲れはて睡眠を取っていたら搭乗時間を過ぎていた。無事バリに到着した後ホテルへ★着いてすぐ水着に着替えて辺りを散策。アイスを食べながら見つけた小学校と変のおいちゃん遊び、ホテルに戻るとお寺に行くことをひどく勧められたので GO！そこで見たサンセットの美しさと幻想的なケチャダンスは、本当に一日目にして最高の満足感を与えてくれた。帰りにショッピングと食事を済ませて、ホテルに戻るとプールへ。深すぎるプールにアップアップしながら、ダメ女の恋愛トークに花が咲く（枯れる？）。夜のプールで恋トークとか、激ロマンティック♪とか思いつきながらも内容はドロドロ。笑*そんなロマンティックな女子たちの体が冷えた頃お部屋に帰って、今度はベッドでまじめトーク。この波長がたまらない

Before

加藤 綾

瀬沼氏に引き続き Before 報告をお送りします。さて、Before 2 日目。私たちは朝からマリンスポーツに行くことにしていて、ジャスト 9 時に車をいうてました。が、キラキラ 9 時に出発★ビーチまでは現地の裕福な家族（TDR と USJ と京都に行ったらしいぜ！ちょう金持！サラってフルーツがおいしいんだって）と一緒に、車内で話ながら無事ビーチに到着！ここで、運命的な出会いが待っているとは、露知らず……。

我々は、おなじみパラセイリングとフライフィッシュとマンボーデュオを選択。パラセイリングは、まさに、「空を飛んでみたい♡」空中遊泳。特筆すべきはマンボーデュオ。まず、こちらボートにご乗車くださーい。ご乗車された後は、皆さんで安全バーを下げてくだ…いやいや、安全バーないやん。ご自身のお力で横におつかまりくださーい…ちょう心もとないけどイケるこれ？いや、むしろ逝けるな。うん♡「では出発しまーす。」船に引っ張られ出発！いやいやいやいやいや待ってコレ！波の上飛んでるよー！すごい振り回されるよー！ほんとにイ…逝っちゃうよー！はあはあ。というところで無事陸に生還したのでした。刺激的だわインドネシア…♡ここで休憩中、一人の男が現れる。ヤツの名は、ニック。ヤツは、わたしたちをナンパしてきた。通常無視だが、ヤツはなぜか憎めない

(なんかギャグセンスはあったw)、そして日本語堪能で優秀な(便利な)男だった。だから、連絡先とか教えちゃったんだよね。うん。この後もヤツの紹介でバリエステとか行っちゃう。気持ち良すぎて普通にイキそ…いや、私たちは涎をたらしながら爆睡していた。そして、バリの民族衣装とか着ちゃう。この夜、ビーチ際の最強美しいホテルに2人で泊り、ニックに連れられ、オカマバーとか行っちゃう。オカマのレベルの高さに感動。ミ○キー並みに人気のオカマと記念撮影。いやぁ…インドネシアって刺激的♡そんなこんなで大満喫したバリライフのメは、女子メンと合流したホテルステイ♪プールサイドで40こくらい蚊にさされた瀬沼氏が印象的でしたね。翌日4時起きで空港へ向かいましたとさ。……あれからやく1か月。私の携帯には、いまだ‘ヤツ’から鬼電がきます♡

A f t e r 1日目

梅崎 智士

9月15日、バリ島にてアフター1日目、ショッピング街を散策中、あるインドネシア人に声をかけられた。軽くあしらった。しかし、彼はしつこくついてきた。話を聞くと、どうやらガイドをしているらしい。何やら、怪しいと思ったが、のりでガイドしてもらうことにした。とりあえず、2時間ほど街を散策し、合流することにした。その際、「ちゃんと、来る?みんな、来なかったら僕どうすればいい?」とひどく心配そうに彼が言ったのが印象的だった。2時間後、約束通り合流地点に行くと彼がいた。彼の名前は、ゴローと言った。笑顔が、少年のようで好感を持てた。なぜ、ゴローかと言うと、日本人の方に呼びやすくしてもらうためだと言う。ゴローちゃんの車に乗り、ウルワトゥ寺院の伝統的なダンス、「ケチャダンス」を見に行った。その道中、ゴローちゃんとナンパをした。その後、ウルワトゥ寺院に向かった。到着後、すぐにウルワトゥ寺院に感銘を受けた。その寺院は、今にも落ちそうな状態を神の力で支えられているかのように、崖の上に建っていた。そして、いよいよ「ケチャダンス」。ケチャダンスとは、男性が「チャ」という掛け声で、リズムをなすダンスのことである。その一糸乱れぬ掛け声の重なりあいと物語性にある種の異様さと神秘性を感じた。その後、帰路中、ゴローちゃんと宗教や、恋愛観、様々なテーマで話をした。そして、ホテル到着後、様々な出会いに恵まれたアフター1日目は終わりを告げた。

A f t e r 2日目

川崎 康博

少し早目の朝食をとり、前日に会った日本語堪能な現地ガイドのゴローちゃんとホテル前にて待ち合わせ。1時間ほど車を走らせ、向かった先はヌサドゥアビーチ。この日は、朝から楽しみにしていたマリンスポーツ。ウェイクボードにスカイフィッシュ、さらにはダイビングまで。まさかバリでマリンスポーツを、しかもこんなに充実した内容で体験できるとは思ってもみなかった。初めての経験に不安と期待を募らせて、美しく透き通った海へ。コツを掴むまでに時間のかかったウェイクボード。あっという間に海上高く舞い上がったスカイフィッシュ。慣れない呼吸方法に苦しみながらも可愛い魚たちに間近に餌をあげたダイビング。日本ではきっと体験できなかったであろう経験がバリのビーチで過ごすことのできた時間だった。

午後になり、再び車を走らせ約3時間。途中で雑貨屋さんにてショッピングをし、各々気に入った物を購入した後、16:00過ぎに到着したのはキンタマーニ高原。絶景を眺めながらの遅めの昼食。素晴らしい景色を見ているととても心が落ち着いた。

さらに車を走らせこの日最後の目的地であるウブドへ。王宮を見て回り、そこで出会った旅行者の方に写真を撮っていただいて、道路沿いに並ぶお店でショッピング。十分に楽しみ、日も暮れてきた頃、ホテルへと帰宅。十分すぎるほど充実した1日になった☆

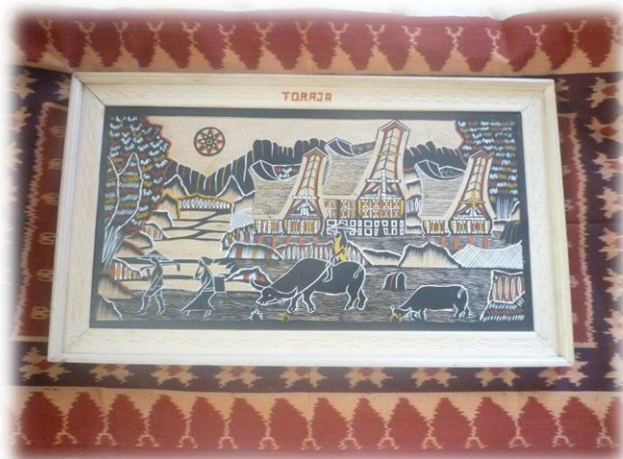
A f t e r 3日目

川崎 康博

バリでのアフターもとうとう 3 日目を迎えた。朝食を食べ終わり、一息ついてからホテル周辺でショッピング。各自気に入ったお土産を買い、気付けばもう昼食の時間。近くのカフェで軽い食事を済ませ、ホテルへ戻った。この日は、午後からツアーに参加する予定であった。14:30 にガイドと待ち合わせをしてツアーStart! まず最初に向かったのは、タマンアユン寺院。ここはヒンドゥー教の寺院で、3 つの空間が仕切られており、最も奥に位置する神様の空間には入ることができないようになっている。その場へ入ることが許されているのはお祈りをする人のみだそうだ。ここでは、宗教や信仰する人々の考え方について考えさせられた。

さて、寺院を後にして向かった先は、この日一番の目的であるタナロット寺院。この寺院は夕日に映る姿がキレイな場所として有名で、それを楽しみの一つにして行ったのだが、あいにく曇りがちの天気でキレイな夕日は次回の機会にお預けとなってしまった。

時間も経過し、次の目的地に移動。途中でショッピングを楽しみ、買い残したお土産をそろえて、夕食へと向かった。夕食では目の前のステージで行われる伝統舞踊を觀賞することができた。食事もおいしくいただき、最後はダンサーの方達と記念撮影をして、この日のプランは終了。3 日目も充実した時間を過ごすことができた。



フリーテーマエッセイ

『幻のトラジャコーヒー』

木下 陽介

KeyCoffee が所有するコーヒーブランドのひとつ「TOARCO TRAJA」。高品質なコーヒーとして有名である。このトラジャコーヒー、かつては幻のコーヒーと呼ばれていた。インドネシア、スラウェシ島の中心部に位置する標高約 1,000m に位置するトラジャ。ここで栽培されるアラビカ種のコーヒーをトラジャコーヒーと呼ぶ。戦前はオランダ人がこの土地を支配しコーヒー農園を運営していた。オランダ王室御用達の高品質コーヒーだった。しかし、戦争が始まるとオランダ人は祖国へ帰国。コーヒー農園の経営ノウハウを現地人に伝えていなかったために農園は荒地となり、そこで栽培されていたコーヒーの木は枯れ果ててしまった。これが幻のコーヒーと呼ばれるに至った所以である。それではどのようにして高品質コーヒー「トラジャコーヒー」は復活したのか。それには日本が大きく関わっている。KeyCoffee の社員であった一人の男性がきっかけとなった。彼は品質管理、地元住民との関わりを重要視しおよそ 30 年という歳月をかけコーヒーを復活させた。「TOARCO」そこには「TORAJA ARABICA COFFEE」という言葉が込められている。トラジャ族の伝統的な住居トンコナンを模したロゴとこの「TOARCO」の文字はトラジャコーヒー復活のシンボルとなった。

Ex が始まる前、このトラジャコーヒーを実際に購入し試飲をした。味わいや香りを楽しむ嗜好品といったイメージのコーヒーだった。ところが、実際にトラジャに行って現地で飲んだアラビカ種のコーヒーは、日本で飲んだものとは全く違うものだった。嗜好品というよりは、私たちが日本で飲む麦茶のような感覚。普段から飲む普通の飲みやすいコーヒーといったものだった。現地のガイドに聞くと、TOARCO TRAJA のような輸出するコーヒーは地元の人は飲めないとのことだった。現地のものであったコーヒーが今は世界のものとなってしまっている姿を肌で感じた。

コーヒーを楽しむ。現地の人々はその味を楽しむのではなく、誰と飲むのかいつ飲むのか、どこで飲むのかといったコーヒーを飲むその時間を楽しんでいるように見えた。毎朝朝食の時に飲んだコーヒー、アラン（米倉）の下でみんなと飲んだコーヒー、段々畑を望みながら飲んだコーヒー。コーヒーを飲んで過ごした時間の記憶は自分の中にはっきりと残っている。カフェで座って一人でゆっくりと飲むコーヒーも良いが、他の人と時間を共有するコーヒーもまた格別なものだこの Ex を通して感じる事ができた。



いつかまたあのアランの下でコーヒーを飲む日が来ることを願って。

『トラジャと僕と Ex』

藤野 大樹

この記念すべき Ex が終わって 2 週間が経った。何を学んだのだろうか。何を得たのだろうか。何を残せたのだろうか。そして、これからの自分にどう影響してくるのだろうか。そんなことをこのエッセイを書きながら僕は考える。

僕は大学 4 回生。今はもう 10 月。就職は決まっていない。もう一年大学に残る。よくない学生だ。4 回のこの時期になるときっと誰もが考える。自分の大学生生活に悔いはない

かと。僕は自分の学生生活に満足はしている。なぜなら大好きなことに本気で関われたからだ。トラジャ Ex はその集大成と言っていい。

大学入学当初、僕にはしたいことがあった。それは、海外に行きまわることだ。単純なことだ。僕は生まれてから浪人まで田舎の小さな村で育った。一度も海外に行ったことがなかった。浪人時代の先生の影響で、大学に入学したらなぜか海外へ行かないといけないというインスピレーションに駆られた。そこで、偶然出会ったのがこの ISA という組織。そこには僕のまさにしたいことがあった。ただの旅行ではない旅行ができる。そして、1年の春に参加した韓国プログラムとフィリピンプログラム。そこでの学びは計り知れない。自分の今まで生きてきた 20 年間の価値観が大きく揺らいだ。そして、僕の欲求は「海外へ行きたい」という欲求から、「僕みたいな人間を海外に送り、その人の価値観を変えさせたい」という欲求に変わった。

そして海外プログラムを運営する Ex. 部長になった。そこで出会ったのがこのインドネシアトラジャ Ex。記念すべき海外プログラムの構築に第 1 線に関わることができる。なんて幸せなことだ。そんなトラジャ Ex. が僕から次の Ex. 部長に受け継がれ今年実現した。僕にとってはすごく感慨深い。トラジャで学んだことは数えきれないほど多い。インドネシアという他民族国家の不思議。インドネシア語とトラジャ語が日常で混合して話されているという事実。少し車を走らせれば、イスラム教圏からキリスト教圏へと変わる。キリスト教とアニミズムが混雑しているという複雑さ。トンコナンは船の形をしているのは、トラジャ人が海を渡ってやってきたのを忘れないため。ガイドの日本を愛する気持ち、トラジャを愛する気持ち、仕事への誇り。人類史の不思議。これらすべてがただの旅行では得ることのできない経験であり、財産だ。

それと同時に、Ex. を実行することの困難さもある。英語が通じない中でのコミュニケーションの図り方。現地の水事情。現地の食事。文化紹介の内容。ISA という組織の理解。これらは今後の大きな課題点だ。

いずれにせよ、今後 10 年、20 年とこのトラジャ Ex が続くことを心から願う。

『交流』

金元 大起

初めて行われる今回の Traja. EX は ISA のプログラムで海外に行ったことが無い僕にとって楽しみと不安の EX だった。どんな出来事・出会いが待っているのだろう。僕のこの気持ちは裏切られることは無かった。まず、衝撃を受けたのはある日本人との出会いだ。彼と話をこの後の旅での胸中に影響を与えた。会話の中で印象に残っているのが日本人のことだ。要約すると日本の大学生が恵まれた環境にいるにも関わらず努力が足りないということだった。日本人は少し頑張ってバイトすれば海外にいける。インドネシアの大学生などは生涯の夢で日本等に行くことを望む。僕は traja に行く前に話せてよかった。次に Traja で話したのがサリーというガイドだった。この人の言葉で「心が繋がること」というものがあつた。サリーは trajaEX を本当に良く思っていてくれていて、ただの観光ではないこの EX が「これから」続くことで心と心を通じていき、だんだんと Traja と ISA がそして、いつか日本とインドネシアが繋がればと言ってくれたことがとても印象的だった。三人目はバーバラという traja 人でこの人も同じガイドだった人だ。この人は日本に三年間もいたことがあり、とても日本に興味を持っていて感覚も日本人に似てきたという面白い人だ。例えば、日本から帰ってきた時、インドネシアの道路が汚いと感じたり、Traja 人は死んだ人を病人だと考え、葬式ができるまで家に長い間置いておく習慣があるが、バーバラは病人だとは思わず家に置いておくと怖いと思ってしまったりという感じだ。バーバラは勉強熱心でそれに触発されたのか一日中動き回って疲れているはずなのに夜中まで話した。様々なことを話した。その中でも特に良く話したのが、宗教についてだ。バーバラ自身はキリシタンだ。神の存在は信じる。日本人も信じている。だからこそ、神社

や寺社にも行く。しかし、僕たちはどういうものに祈っているのか、どんな顔をしてるのか、奈良の仁王像に代表されるような神にはなぜ祈らないのか、など質問をされた。僕は上手く答えることができなかった。日本のこと特に精神的なものはなにげなくやっていること、無意識にやっていることに無関心だなと感じた。必ずしも知っておかなければならないということはないが「自覚」は必要だ。僕はインドネシアで日本のことを知った。そして、最後はアフターで出会った通称ゴローというガイドだった。始めとても怪しい人だったがとてもいい人だった。ゴローはムスリムでここでも宗教の話になった。ゴローは「宗教のことは個人の事」だから、中東で起こっている宗教紛争はおかしいと言っていた。分からなければコーランを見ればいいと。この言葉は多くの宗教が存在するインドネシアだからこそ出てくる言葉ではないかと思う。ゴローが祈りの時間になりモスクに行く時に知らない人（この人はヒンズー教）からバイクを借りた。色んな要因はあると思うが一つには他宗教への理解があるから可能なことだと考える。この中では、書ききることはできないが多くのことを得た旅になった。このような交流が続くことを願う。

『WANT～インドネシアの教育事情～』

安保 夏絵

「みんなは将来何になりたいの？」と聞くと、警察官と答えた男の子もいれば医者と答えた女の子もいた。トラジャにある学校を訪問した際のことである。最初子供たちは好奇の眼差しで私たち日本人メンバーを見ていたが、将来になりたいものを言う時には力強い意志のある素敵な笑顔を向けてくれた。反対に、私は自信を持って将来になりたい職業を多くの人の前で果たして言えるのだろうか。彼らには夢があって学校に来ている。少し恥ずかしくなってしまったのを今でも覚えている。

インドネシアの教育レベル（学生の学力）は世界的に見ると比較的高く、教育指導は5つの理念に基づいている。1）唯一絶対神を信仰し、2）人を思いやること、すなわち人道主義を忘れず、3）団結する。そして4）話し合いをして5）助け合う。義務教育は日本と変わらず中学生までであり、どこの学校も制服を着ることが義務である。ここまでは本当に日本と変わらない。では、どこに違いがあるのだろうか。どうして「WANT!」と言いながら手を差し出してくる子供たちがいるのだろうか。理由としては、義務教育の実態は義務教育として成り立っていないからである。特に首都ジャカルタでは経済的理由で働かなければならないという家庭の事情で学校に行けない子供たちがいるのだ。それは新聞、たばこ、あるいは飲料水売りなど決して高くはない収入である。義務とされている中学校の就学率必ずしも100%とは限らないのだ。仮に100%なったとしても、現に生徒の人数は多い。学校訪問で見た教室にある2人用の机は3人以上で使われていた。それ以上に生徒がいるはずだと考えると、教育施設的环境は変えざる負えない可能性があるといった問題も出てくるのだ。

私たちは国際協同を目的にExに行った訳ではなかった。むしろ国際交流に近いものだった。実際に日本に興味を持って日本語を学んでいる学生もいれば、働いている子供たちもいる。放課後に親に仕事を頼まれる子も少なからずいるはずだ。その現状を目の前にしてみて、正直に言うと「WANT!」と子供たちに言われお金をせがまれた時に、何もしてあげられずにただ「ごめんね。」と言うことしかできない自分に憤りを感じた。恥ずかしさも感じた。お金を与えたところで自己満足にしかならないのではないかな。私たちが一学生としてできることは何なのだろうか。そんな考えが過ぎった。確かに私たち日本の学生は今は何もすることができないかも知れないけれど、自分の考え方や将来、大きく言えば色々な世界について再考する良いきっかけになったのかと思う。あくまでこれは私の個人的な考えであるが、このExは私たちが何かを学び考え、そして将来「WANT」の期待にこたえられるような人になって初めて意味のあるものになるのではないだろうか。少なくとも私にとってはこのExは終わってはいない。これから先がとても重要なのだと考える。

『凄いんだって～、日本文化』

儀間 真和

今回4つの学校と文化交流する機会があった。特に私が衝撃を受けたのが1日目のこと。日本語を専攻している大学生と交流した。そこである学生に興味本位でなぜ英語ではなく、日本語を専攻しているのか聞いてみた。すると返ってきた答えが「きっかけは日本のアニメが好きだから」と言うこと。そこで私は雷が落ちたような衝撃を受けた。

日本で英語を学ぶ場合、大体の人は義務教育の一環で学ぶのがスタートだと思う、たぶん。けど彼は日本のサブカルチャーが好きという理由でなんです。ほかの人からしたらなんてことないのかもしれない。けど私には衝撃的だったんです。私は、いくら映画やなにかで外国のものに感動したりしてもその言語を学ぼうとおもったことはありません。ましては仮に私が日本人でなかったとしても、あんな島国でしか通じない日本語を学ぶ気になりません。そんな考えでいままで生きてきたので、私にとって今回の交流はトンカチで頭を殴られるような体験でした。やっぱりすごいんだねえ～、JAPAN!!!

『Toraja の人々の暮らし』

月輪 光

マカッサル空港から約9時間のドライブを経て到着したトラジャ族の村、サダン。到着時はもう夜で小雨も降っていたが、現地の人々はもてなしのコーヒーや現地の踊りを見せてくださり、私たちの訪問を心から迎えてくれているように感じた。重たいスーツケースを高床式の伝統的な家「トンコナン」に運び、少し肌寒さを感じながらブランケットをかけ、眠りについた。あついにexデビューだ、という胸の高鳴りを感じながら。私たちの生活は朝8時起床とゆっくりしていたが、現地の人々の生活はもっと朝方だと聞いた。朝5時、6時には起床し、午前中、男性は田んぼで仕事をし、女性は家の中で機織りなどの仕事をする。中学や高校も授業は午前中が中心で、午後は授業がないと言っていた。現地ガイドの人の話の中で、「私たちの暮らしは仕事を中心ではない」という話が印象に残っている。午前中は仕事、午後は休憩、夜は家族と団らんという人がほとんどだと言っていた。現地の方は何度も「バランスが大事だね」と言っていた。私はその話を聞いて、自分の中での「豊かな暮らし」という概念が少し揺らいだ。日本では、学校や仕事が生活の中心になり、週末にぱーっと遊ぶ、という感覚が強いと思う。それも充実した豊かな暮らしと言えよう。ただ、現地の方がしきりに伝えていた「暮らしのバランス」は仕事・遊び・休みに毎日すべて均等に時間を費やしているという感覚だった。何も豪華なフルコースやウォシュレット付きのトイレが豊かな暮らしという感覚ではない。それを特に感じたのは、毎晩、外でイスを並べて、時間を気にせず現地のお酒を飲んでいる光景を見た時だった。何気ない会話に花を咲かせ、誰にでも「一緒に飲もう」と誘ってくれる。そういう「時間への余裕」に暮らしの豊かさを感じ、私もよく一緒に杯を交わしていた。今回のExで、私は本当の異文化を感じるのだろうとワクワクしながら日本を飛び立った。もちろん葬式の見学や豚の解体などはかなり衝撃的な光景だった。しかし、それと同時に、「暮らしの豊かさ」という概念は異文化に暮らす人々同士でも通じるものだと感じる事ができた。他の国の人々の「暮らしの豊かさ」も、もっと知りたい。

『インドネシアの人たちっていい人多かったね』

原田 涼

勉強会の時に国民性を調べた時は、「無責任である」や「性格の弱さからNOと言えない」など、否定的なことばかりでできました。しかし実際にトラジャExを通してインドネシア人、トラジャの人と関わってみてそのようなことはとくには思いませんでした。ガ

イドのマルセル、サリーちゃん、バーバラ、ドライバーさんたちをはじめとし、日本語を勉強している高校生大学生や、村の方々、子供たち、多くの人々と関わってきました。みんないい人たちでした。思ったことは、インドネシアの人たちはとても笑顔が似合う！ネシアスマイルいいですね。マルセルのあの笑い方が本当に大好きです。体調をくずした人が多かった今回の Ex、あの笑顔に助けられた人が何人かいたことでしょう。高校を訪れた時も生徒たちの顔は輝いてました（主にぼっくんさんに対して）。笑顔が素敵なのってすばらしいなって思いました。マルセルたちは当然笑顔だけが取り柄なわけではありません。彼は面白い。流ちょうな日本語で楽しい会話を何度したことか。時には下ネタトークだった。サリーちゃんやバーバラともいろんな話をした。何を聞いても丁寧にわかりやすく答えてくれた。たしかに、それが仕事なのかもしれないがそれでも彼らの人のよさは伝わってきた。トラジャで交流した大学生の人たちも、中には日本語は当然、英語もいまいちわからないような学生もいたけど、目が合えばにっこり笑いかけてくれたりしました。村の子供たちは、時には乱暴だったけどみんなかわいくていい子たちでした。

この短期間で国民性をさぐるのはむずかしいことでした。これだけでわかったつもりになるのもよくはないと思います。けど、僕の中のインドネシアの人たちはみんないい人です。もちろんそうじゃないのはわかってます。でもいいんです。みんないい人だったんです。インドネシアの人たちっていい人多かったね。

『動いた分だけ、意識は広がる』

小阪 早希子

数年前から語尾が“～シア”という国に行きたいという思いを漠然と抱いていた。そう、マレーシアかインドネシアだ。そして、留学先のシドニーから何気なく SNS を見ているときに友達経由でトラジャ EX のことを知った。

トラジャ EX01 か。インドネシア・・・行きたい！え、でも一回目？てか、トラジャってどんどこ？えー大きい街から車で 8 時間か・・・あ、でもお葬式おもしろそう。うーん、でも一回目ってやっぱり不安。

私は、参加するか否かをしばらく考えた。”第一回目”ということへの期待と不安が入り交じる。しかし、1 回生時に参加したフィリピン EX で得たものを思い出しているうちに、気持ちは決まった。そして、その決断は正しいものだったことをいま痛感している。トラジャ EX では、例に漏れず私もお葬式を通じて様々なことを感じ考えた。悲しみの雰囲気は漂っているとはいえ、盛大なお葬式がお金、時間とそして労力をかけ行われる。暑い中本当に多くの人々が、亡くなられた 2 名の方のために参列していた。その 2 名を知らない私達にもコーヒーや紅茶が振る舞われた。そのことに恐縮しながらも、お葬式を深く体験しようと、私は身構えて周りを観察してみた。聞こえてくるのは、苦しそうなお豚の呻き声。そして、やはり目に入るのはたくさんの人・人・人。重い足取りで飲み物を運ぶ女の子の人。私達に話しかけてくる軍服を着た英語を話す男の人。遠くを見つめながらタバコを吸っているおじさん。トラジャの伝統衣装に身を包んだ可愛らしい子供。高価そうなカメラを構えた観光客。そして、黒い服を着ている亡くなった方々の家族。お葬式に参列している理由も、参列しているときの心情もきっと全員違う。そして、このお葬式を通じて何を得るかもそれぞれ違うのだろう。

正直に言うと、自分を含めた観光客がお葬式に参列していることに、一種の異様さを感じた。なぜなら、私は亡くなった 2 名のことをよく知らない。私は異文化を体験するために参列したのだ。異文化に対する好奇心が、私をこんな遠く離れた場所まで突き動かした。野次馬根性と言ってしまうえば、それまででもある。現に、血を流している横たわる水牛に人々がカメラを向ける姿に、私はそれに似たものを感じてしまった。その思いは拭えない。トラジャの人々に観光客はどの様に思われているのだろうと不安にもなった。

しかし、私はこのお葬式という経験のおかげで貴重なものを得た。多様な価値観をいうものを肌で感じたのだ。よく耳にする”多様な価値観”がようやく自分のなかでしっくりきた。つまり、意識が広がったのだ。お葬式に莫大なお金をかける、そのために頑張って働くという価値観。異文化体験をするためにお金と時間をかけるという価値観。当然ながら、信条や立場によって価値観というものは人それぞれ違う。それでいい。それを知るのがおもしろいのである。

最後に、私達を受け入れて下さったトラジャ族の方々に心からの感謝の意を表したい。

『死生観』

豊嶋 弘樹

トラジャ人は独特の死生観を持つ民族として有名である。本稿では、そのトラジャ人の死生観とお葬式について取り上げる。トラジャでは、死を断続的なものとはとらえずに、来世へ魂が送られる間のプロセスとしてとらえている。そのため、魂を来世へ送り出す儀式である葬式は盛大に執り行われる。その盛大さは故人の権力や富を示し、盛大なほど生贄にささげられる水牛の頭数が多い。魂が来世に移動する際、水牛に乗って移動するとされており、水牛の数が多いほど、より早く来世に移動できると考えられているからである。したがって葬式において水牛を殺し、故人の魂とともにそれらの魂を送り出すのである。水牛のほかにも、豚などの家畜が生贄にささげられるが、これは故人が来世に向かうまでの弁当である。トラジャには、レモ村、ロンダ村など観光客が見ることができるお墓がいくらかある。我々日本人にとって、お墓を見ることは不気味であり、見られることはあまり気分が良くないことであるが、トラジャ人は、見られることに対してあまり気にせず、そのことによってお金が入ってくるため、それを良しとしている。レモ村のお墓は、壁に穴を掘ってその中に遺体を入れる形式のお墓だ。作るのに数か月もかかるらしい。また、掘られる穴の高さは身分によって決まる。このように埋葬には手間も時間もかかる。すると必然的にお金もかかる。だからトラジャ人は、稼いだお金を貯めて、自分の死後のことに対して費やすのである。お金を持っている人でも、普段は質素な生活をしているため、お葬式やお墓を見るまでは、その人がお金を持っていたかがわからない。その考え方が、彼らの生き方によく反映している。

我々は、運よくトラジャ人のお葬式を見学させていただくことができた。お墓同様、観光客も見学できる。海外から訪れる観光客はとても多く、印象に残っている。トラジャのお葬式では人数が多ければ多いほど良いとされているため、観光客の見学が認められている。観光客がお葬式を見学することに不可解に感じる日本人も多いだろう。我々トラジャEXの参加者の中でも意見が分かれた。お葬式を観光客が訪れ、写真を撮ったり、見学したりしている現実に対してあまり受け入れられないという考えを持つ者もあり、トラジャ人の死生観を知って、それを体現しているお葬式に参加し、魂の送出を見届けることは、トラジャ人にとっても自分にとっても良いことであるという考え方を持つ者もいた。私は後者の意見だ。事前学習やレモやロンダなどのお墓をまわり、ガイドから説明を受け、トラジャ人の死生観について学んでいたからか、お葬式を見学してそれをすっきりと受け入れることができたような気がする。実際にその儀式を見届けることができよかったと思っている。他の観光客らが何を考えて参列していたかはわからないが、トラジャのお葬式を単なる変わったパフォーマンスとしてみるのであれば、観光客の見学は認められないことだろう。トラジャのお墓をまわったり、その考え方を学んだり、お葬式を見学したことは、我々に様々なことを考えさせた。とても良い経験となった。

『繋がり』

秋山 和俊

トラジャに約 1 週間過滞在して感じさせられたことは‘繋がり’である。それらは全て、お金が媒体になれない偉大なものであると感じられた。

1 つ目は、「命の繋がり」だ。自分が今まで送ってきた日本での生活は、生命の営みにおいて‘断片的’なものであることを改めて実感させられた。日本の生活で見る肉は、スーパーでパックに綺麗に詰められた牛肉や豚肉か、レストランで出される調理済みの肉。一方、トラジャでは、水牛の餌を採り、水牛に食わせ、水牛を殺し、それを我々が食うという命の一連の繋がりを見たり体験することができた。また、夕食のために絞めた豚を運んだ時の重みは、物理的な重みだけでなく、心の中に命の重みとして克明に記録された。そのとき手についた血は、洗った後も手に残った感覚が離れない。日本でお金を払って、パック詰め肉を買うだけでは得られない感覚だ。命の重み、血の生々しさを感じない代わりに、お金を払う。お金だけでは得られない命の‘繋がり’、有難さを感じられるトラジャでの生活であった。

2 つ目は、「観光客と現地人の繋がり」だ。日本での観光といえば、お金を払って一方的に見せってもらう観光地での伝統芸能や、見学者が見やすいように整備された観光地が思いつく。今回お世話になったガイドのサリーちゃんが、僕たちの文化紹介に対して、自分たちの文化を紹介するためにダンスや歌をこんなに一生懸命練習して発表してくれた日本人は今まで 30 年のガイド経験で初めてだと感動してくれた。孤児院の先生も僕たちが「未来へ」を歌い、「うらじゃ」を踊ったことで感動したので、喜んで孤児院の中を見せてくれたり歌を教えてくれたとマルセルさんが言っていた。お金だけを払って一方的に何らかのショーを見せてもらう関係とは大きな違いがある。お金を用いた取引では得られない本当の交流が実現し、相互に心の‘繋がり’ができた気がした。

3 つ目は、「身内・近所の繋がり」だ。日本では、核家族化、近所付き合いが希薄で、僕は隣の家のはっきりとした家族構成さえ知らない。トラジャでは、近所のどの家から来たかわからない子が 1 つの家に入り乱れて一緒に遊ぶ。現在、学びの場や職場を求めて多くのトラジャ族が外部に出ているというが、トラジャ族は 5 年に 1 度全員が集まり、周辺の宿泊施設はいっぱいになるという。身内・近所の‘繋がり’をより強く、大事にできる文化である気がした。

これらの‘繋がり’は、私たちの人生で必ず必要なものであるかは分からない。が、私たちの人生をより豊かにしてくれることは間違いなさだろう。お金では媒体になれないもっと強い相互作用、‘繋がり’が存在することに気づかされる場所であった。

『トラジャの模様とトラジャ人の誇り』

森 貴大

トンコナンや織物など、トラジャを歩いていると渦巻の様な模様が描かれているのがわかる。その模様の意味、それは「トラジャ人は必ずトラジャに帰る」。これは二つの事を意味しているように感じる。一つ目は、以下の事である。

トラジャ人は民族全体で 200 万人いるが、トラジャ地方に住んでいる人々は 40 万人程。160 万人は他地域で暮らし、生活を営んでいる。しかし、5 年に一回、全てのトラジャ人がタナトラジャに帰ってくる日がある。その日はトラジャ中の宿泊施設は満室になり、村は賑やかに様変わりするようだ。まさにトラジャ人のアイデンティティは国にあるのではない事がわかる。皆民族に誇りを持ち、故郷を忘れはしない。

二つ目は死後である。例えば、外国でトラジャの方が亡くなったとする。その場合はその国からトラジャへ運ぶ。そしてトラジャの地で必ず埋葬される。

トラジャ人にとってトラジャとは何なのか。私は「帰る場所」だと思う。そしてその場所は「繋がりを確認する場所」でもあるように感じる。生きている時も死んだ後もその繋がりを実感し、大切に続ける文化こそトラジャ人の誇りなのだと感じた。

そしてもう一つ、僕自身が実感した「トラジャ人の誇り」である。それは今回のメインの目的であった葬式への参列が叶った時に思うことであった。実際にその葬式はプレでもなくて、嘘偽りなく本物であった。家族の誰かが死に、その人を想う儀式。悲しさも当然ある。話は逸れるが、トラジャの葬式は、華やかで祭りのようであるが、決して日本で僕自身がイメージとして持っていた、あるいはネットに掲載されていたようなものではなかった。その内容とは「死者を天国へ送るのだから、悲しいものではない。だから豪勢な、賑やかな葬式をする」というものである。話を戻す。実際は身内の方の泣く姿が見られる。それは悲しい故人との別れの間であった。そして、その故人にお供する水牛の勇ましさ。まさに本物である。そして、この本物の葬式をなぜ彼らは、異国人に、観光客に開放して下さるのだろうか。もしかすれば、ビジネス的な要素を含んでいるのかもしれない。しかし、それなら遺族に行くお金の流れを想像しづらい。あえてそういうややこしい考えを僕は封印した。そして、そこに残った感覚をこのエッセイで書きたい。なぜか？誇りではないか。トラジャ人の誇りではないだろうか。文化に対する誇り、自らは死とこのように向き合っている！そんな気概のようなものを感じた。これがトラジャだ。

純粋に僕は圧倒され、後ろめたさを抱えた。

『これからの私の国際交流』

疋田 桃梨

このインドネシアトラジャ Ex. に参加して一番心に残ったのは、わたしが普段コミュニケーションを取るに当たって如何に言語に頼り切っているかということを実感したことだ。

トラジャの大学生と交流会を行ったとき、お互いの共通言語としては英語だったのだが、自分の言いたいことが伝わらない、相手の意図するところが分からないという状況だった。文化紹介を行っている間は、意思疎通の手段として「道具」が存在し、言葉が伝わらないという状況下でもどうにかコミュニケーションを図ることができた。しかし、その後一緒に昼食を取ったときには、お互いの「言葉」しかツールがなく、食事を取りながらも必死に話をしようとするのだが、やはり伝わらないということに正直挫けてしまった。そのときに、これまで自分が異文化をバックグラウンドに持つ人々と交流をするときに、もちろん伝えられない部分はボディランゲージ等を使い、そしてそれ以上に「言語」に頼り切って安心していたことを自覚した。

「国際交流をするのに完璧な言語力は必要ない！伝えたいと思う気持ちが大切」というスタンスで今まで来たが、今回の経験によって覆された。やはり、何かを伝えたい、聞きたいと思ったときにボディランゲージのみでは限界があり、最低限の単語や文法を知っている必要があると感じた。勿論、旅行の度に訪れる国の言語を学ぶことは並大抵の努力では出来ないと思う。そこで役に立つのが「指差し会話帳」などの自分で話さなくても「必要だと思われる例文がイラストと共に掲載されている」スタイルのテキストを駆使することだと実感した。今回、インドネシア語やトラジャ語について学ばず、更にはテキストも持参しないという準備不足な状態で参加したことを後悔している。

…ということをつらつら書きながら今ふと思った。サダン村で出会って一緒に遊んだ子どもたちやマカッサルで訪問した学校の生徒たちはシャイで話しかけてもそっぽを向いてしまうことも多々あったのだが、慣れ始めるとガンガン現地の言葉で喋りかけてくれた。そのときのことを思い出してみると、私も周りの子どもたちも笑顔だった。対して、大学生との昼食のときのわたしの顔は引き攣っていたらしい。不安が顔に出ていたのだろう。それを思い出すと、トラジャの大学生たちに対して申し訳なかったなという気持ちで一杯になる。

今回の Ex. では本当に色々なことを学ぶ機会がたくさんあった。この経験はその内の一つであり、「国際交流における意思疎通には必要最低限の言語と笑顔を要する」。「いつでも笑顔！」をモットーに、これからもたくさんの人と出会い、たくさんのことを学び、たくさんの人のために何かができる人間になるために努力したいと強く思うきっかけになった。この素晴らしい機会をくれた、トラジャ Ex. で出会った人たちに強く感謝している。本当にありがとうございました！

『トラジャ Ex、そして Ex について』

林 留美奈

1 回生の夏、モンゴル Ex に参加して以来 ISA、そして Ex の魅力にどっぷりはまっていた私。春にはフィリピン Ex、夏には ASC に参加して、現在は Ex 部長をしている。

Ex 部長になった私に大役が回って来た。インドネシアトラジャ Ex だ。トラジャ Ex は、2009 年夏に初めて話が出て、様々な人の努力により、2011 年 4 月に無事に承認された。

そして 9 月。インドネシアトラジャ Ex 01 が行われた。マカッサルの地に降り立った瞬間涙がでそうになった。ずっと夢に見ていたトラジャ Ex。一度承認を取り消されて必死になったトラジャ Ex。本当に実現したのだ。

バリから国内線で 1 時間、そこからさらに車で 8 時間。ついにタナトラジャについた。マカッサルではおさえていた涙があふれ出してきた。みんなの思いが詰まったトラジャ Ex が形になったのだと実感した。涙とともにこみ上げて来たのは、絶対に成功させたい、責任を持ってやり遂げたいという気持ちだった。

トラジャ Ex が始まり、さっそく壁にぶち当たった。それは交流についてだ。他の Ex では基本現地の学生と常に行動を共にする。しかし初日、現地の大学生と合流し、これからずっと一緒に過ごすと思ったら交流はほんの 1 時間とランチを共にしただけ。彼らはバイクで 1 時間半かかるところからきているとのこと。そして、英語専攻の学生だが、内向的でありあまり英語が使いこなせていないという状況。完璧に私の確認ミスだった。みんなにはずっと大学生と同行と伝えていた。みんなに伝えた情報と全然違う。本当に申し訳ない気持ちでいっぱいだった。だが、参加者のみんなを見ると、短時間でも一生懸命交流している。村の子供とも、意志疎通が難しくても楽しんで交流している。落ち込んでも無駄だと気付いた。それと同時に今までの Ex のことを考えた。特にフィリピン。日本人なんてめったに来ないようなファーム。そこに私たちが行くと子供たちがみんな喜んで寄ってくる。当時は当たり前のように感じていた。しかしトラジャ、サダン村で子供たちは恥ずかしがってなかなか心を開いてくれない。ファームでもかつてはそうだったかもしれない。そうであれば、交流が円滑にできないのは当たり前なのかもしれないと思った。そして今までの Ex を作り上げてくれた人たちに感謝の気持ちでいっぱいになった。

自分が Ex 部長になった理由を思い出した。Ex が大好きだから、そして Ex の魅力をみんなに伝えたいからだ。今こそ、いろんなことを経験させてくれた Ex、ISA に恩返しできるチャンスだ。

トラジャ Ex で様々なことを感じた。他の Ex も最初は大変なことがたくさんあったかもしれない。けどそれは、今までの Ex 部長や参加者の努力によって改良されてきたのだと思う。今まで当たり前のように交流してきたが、トラジャに来て交流することの大変さを思い知った。自分たちが交流したいと思って出来るわけではない。特に言葉が通じにくい環境では互いに交流しようとしなければ難しい。互いが知る努力をしなければならない。01 は終わったが、ここで終わりではない。これからが始まり。私たちは ISA の歴史に残る大きな大きな一歩を踏み出したのだ。

『インドネシア★エトセトラ』

瀬沼 里沙子

【歳】インドネシアでは昔は歳を数える習慣がなかった！インドネシア語で「だいたい」は「キラキラ」。だから昔の人たちは自分の歳を言う時、「キラキラ〇歳」と言う。

【ゴミ】都会では、ゴミ収集車が家まで来てゴミを収集する。燃えるゴミと燃えないゴミに分別して、プラスチックはリサイクルに回される。田舎では燃えるゴミは燃やし、燃えないゴミは埋められる。それが環境汚染だという認識は皆無。

【生活費（トラジャ）】月平均収入は 7000 円。月に電気代 500 円、ガス代 900 円、水道代 500 円が出ていき、そのほかにも子供の教育費、家畜の世話費、ガソリン、などで出ていくため裕福とは言えない。そのため、ガスは極力使わないよう外で火を起こして料理をしたり、水道をひかずに川や井戸水を利用したりしている人も多い。ちなみに家を一軒建てようと思ったら安くても 10 万円必要。そして多くの人が使っているバイクも一台 10 万円程する。これはローンを組んで購入する人がほとんどだ。

【教育】小中高と、日本と同じ。義務教育は中学生までだが、お金は必要。ない人には政府から援助がある。高校へ進学するのは 56%ほどで、大学へは 26%だ。大学進学する人には華人が多い。

【お酒】ビールよりヤシ酒が好まれ、大学生たちは週に一回集まって飲んだりするが、いっぱいはい飲まないらしい。ちなみに下ネタもあまり通用しない。（悲）

【観光客】ドラジャの観光客の 80%がフランス人。日本人は年間 200 人程。インドネシアの観光客人気場所ランキング 1 位はバリ、2 位はボロボドゥール、3 位はトラジャ。

【結婚式（イスラム）】教会で結婚式を済ませた後、披露宴が行われる。親族はアランと呼ばれる米倉の下に、出身地別に座る。友人、仕事関係などその他の人は並べてある椅子に座る。この披露宴は結婚する男女のそれぞれの家で一回ずつ行われ、一回の結婚式に 500 万円程必要なのだが、全部男性が負担しなければならない。（お金がなければ結婚式を盛大にやることはない）

【家】南スラウィス地方には、ブギス族・マカッサル族・マンダン族・トラジャ族が存在し、先 3 つがイスラム教、トラジャ族がキリスト教だ。これらの民族が暮らす家はほとんどが高床式で雨季に浸水しないよう配慮されている。家にはそれぞれ変わったマークが屋根の両サイドについている。牛の角のような形を付けているのが農家、バッテンマークが漁師、一本縦に棒が立っているのはイスラム教を教える家だ。インドネシアでは、建設の際の支えとして竹が大量に用いられるが、よくしなる竹を屋根の支えにして、その間に支柱を建てる作業をしているのを見て、不安になった。

【感想】上記のことは、すべて現地の様々な方に聞いた話なので、もしかしたら事実と違うことがあるかもしれませんが、しかし、こうやって色々な事に興味を持って、生の声でインタビューして、生の声が帰ってくるという環境の中で、聞けること。その中で見えてくる現地の生活。これが私にとっての現地に近い中で生活できる大きな魅力です。

『トラジャ EX』

加藤 綾

<トラジャのいきさつ>

このトラジャ EX は、今年が初開催といえども、計画については 2 年前からあがっていたものだ。まずは、始めるきっかけとなった既卒のねづっちさんに感謝。そして、会員にはわからないところでずっと企画をつめてきてくれていた EX 部長に感謝である。私事だが、昨年自分も全代として少しはかんでいた PJ だったので、実現されたときは感慨深かった。そして、無事 EX が終了し、マルセルに木彫りのボードをいただいた時は、人とのつながりを感じ、熱いものがこみあげた。そんなトラジャ EX。

<参加者から学ぶこと>

通常 EX といえば、他国の人や、他支部の日本人との交流がメインだが、今回はそれ以上に参加者から学ぶところが多かった。これは、メンバーが ISA のベテラン(笑)揃いだったことに依ると思うが、皆それぞれに甘えることなく、互いを高めあっていたのがよかった。だれかに何を言われなくても、各々が自主的に動いたり、文化紹介を短い時間ながらも真剣にとりくんだり、という点である。例えば、ある者は早朝民家周りのゴミ拾いを行い、ある者は内向的な現地人と積極的な会話を試みたり、ある者は常にメンバーの体調に気を遣ったり、ある者はメンバーやガイドへのサプライズを企画したり、といった具合である。挙げればきりが無いが、ある特定のメンバーだけでなく、ほとんどのメンバーがそれらを実行していたのが素晴らしく、自分を奮起させた。常にアグレッシブであれ。

<バンブーミュージック>

数あった現地交流の中でも私の胸に焼き付いているのがバンブーミュージック。トラジャの孤児たちが先生の指揮のもと素晴らしい音楽を披露してくれた。我々のような外国人が一気に来ることは驚きに違いなかっただろう。最初は子供の顔がこわばっていたように思う。だが、次第に心を開き、笑顔をみせてくれた。名前を教えてくれた。自身の部屋を案内してくれた。決しておごり高ぶりたくなどないが、我々の歌や踊り、存在そのものが彼らに夢を、元気をプレゼントできたのではないか。ものの支援が全てではない。形には残らないが、私たちとの‘思い出’は、感動体験はその人の財産になると思う。だからこそ、この子供たちとの交流は、毎年ぜひ続けて頂きたい。そして、子供たちが夢や希望を持って人生を楽しめますように。人を介して感じる感動体験こそを、私は大切にしたい。

<インドネシア人の将来>

学校訪問をした際、私は「何になりたい?」「どういうことをしたい?」という質問をよくした。多かった答えは①看護婦②医者③教師。これらに従事すれば高収入らしい。逆に、これ以外の意見はほぼ聞かれなかった。だが、これらの職に就ける人間は限られてくるだろうし、もっと安定した雇用の門戸が広がるべきだと切に思った。そして、彼らの活躍できるフィールドが広がることを願う。

『お葬式』

武蔵 翼

人は必ず死にます。それは、悲しいことだけど、覆らない事実です。多くの日本人は家族が死ぬとお葬式をして、悲しみます。日本のお葬式は静粛に執り行われ、厳かな雰囲気のあるものです。しかし、トラジャのお葬式は、有名な観光の目玉ともなっています。お葬式＝観光名所という考えが結びつかないと思いますが、トラジャのお葬式では多くの水牛と豚を生贄として殺すというユニークな伝統があるからです。水牛は死者が神様の元へ行くための乗り物、豚は死者のお弁当として殺されます。殺す水牛の数で生前の個人の階級が分かるようになっています。私たちが参加したお葬式でも、水牛が1頭殺されました。

初めに、トラジャのお葬式はお祭りのようなものと聞いていましたが、それは見た目だけでした。お葬式会場についてしばらくすると、大きな棺桶が2つ運ばれてきました。その日弔われる故人です。それが運ばれてきたとき、家族の方は号泣されていました。いくら死ぬことは生きることによって喜ばしいことであっても、人が死ぬことは万国共通で悲しいことなんだと思いました。会場には多くの人がいて、賑わっていても、家族にとってそこは故人との最後の別れの間であり、故人を死者と初めて認める場です。トラジャでは、お葬式が行われる前までは、故人を死者として捉えるのではなく、病人として捉えるそうです。日本では、息が止まった瞬間その人を死者として捉えます。私にとって当たり前の死に対する定義が違うことに驚きました。

棺桶が会場に運ばれたあとに水牛の登場です。水牛は一瞬でノドを刃物で突かれて死にました。水牛は神様の処まで故人を運んでくれる乗り物だから、大切に育てられます。水

牛を買うためにお金もかかります。これほど苦勞して手に入れた水牛を惜しまずに自分の家族のために殺します。お金がかかることを現代になっても行うということはそれだけトラジャの人々にとってお葬式は大切な伝統なのだと感じました。

このお葬式見学で一つだけ欠点を見つけました。それは、観光客の態度です。彼らは、お葬式の見学を旅のメインにしているでしょう。服装は肌の露出を抑えたものを着ておらず、まるで本当の祭りに参加しているようでした。文化を尊重しなければいけないことは彼らも知っているでしょう。しかし、態度で表わさなかった彼らにとって、トラジャ族（アジア）の文化はまだまだ下なのかと思いました。

『トラジャの伝統家屋』

小林 実咲子

マカッサルから車で約10時間。大きな船形屋根の建物、トンコナンが見えてきたらそこがタナ・トラジャだ。トンコナンは船形屋根と色鮮やかな外壁の装飾を特徴とする高床式の住居だ。語源はトラジャ語で「座る場所」という意味。どうしてこんな山の高地に船形をシンボルとする建物があるのか。それはトラジャの祖先が中国から船に乗ってきたからだといわれる。全てのトンコナンが必ず北向きに建てられているのも北の中国から来たことを表しているのだそうだ。またトンコナンと同じように船形の屋根をもつアランという建物も多く見かけた。トンコナンと比べると小型で、穀倉として使用されている。死者を南へ送るという意味で全てトンコナンと対に南向きに建てられている。水田付近だと1つのトンコナンに対し複数のアランがある。アランの下で人が集まっている様子もよく見かけた。実際に私たちもそこで朝食をとったり、遊んだりすることが多かった。トラジャ人にとって一番落ち着く、寄り合いの場のようだ。

またトンコナンには建てられた年と建てた人の名前が書いてあるものがある。親族で1つのトンコナンを先祖代々受け継いでいるのだ。よって例えば別の地域で同じトラジャ出身者と出会ってトンコナンの名前を聞いてみたら遠い親戚だったなんてこともあるようだ。サダン村でも男子が使用していたトンコナンの柱にもガイド曰くトラジャでそこそこ有名な人（名前は忘れたが）の名前が刻まれていた。日本では先祖といえども、遺影が残っている人の代までしかわからない人が大多数ではないだろうか。トラジャではこのような形で何代にも渡って先祖を敬い、親族の統合を表している。

もうひとつ、特徴として忘れてはならないのが外壁の装飾。一見、ただ描かれているだけのように見えるが実はすべて彫刻だ。ベースとしての幾何学模様にはトラジャの神話や儀礼において重要な意味をもつ水牛（富の象徴）、雄鳥（弁護）、太陽（太陽崇拜）の文様が黒、赤、白、黄色で彩色されている。アランにも基本的には同じような装飾が施されているが裕福でない家では模様のないものも存在する。

トラジャの伝統家屋トンコナン。ただの芸術的な住居ではない。特徴すべてに独特の意味があり、トラジャには欠かせない風景の一部になっている。この巨大な建築物にトラジャのすべての歴史、文化が凝縮されているのだ。写真だけでは伝えきれない集落の生活空間や文化の重み。ぜひ現地を訪れて肌で感じてもらいたい。

『トラジャ民族の死生観』

東 勇佑

今回のトラジャExで、私がフリーテーマエッセイに取り上げるテーマはトラジャ民族の死生観です。このテーマを取り上げるきっかけとなったのは、6日目（9月12日）の活動でお葬式を経験したからです。このお葬式で私は3つの点で日本では得られることのできないものを感じました。

まず、1 つ目にお葬式の日程です。トラジャ民族のお葬式はほとんど農業の閑散期に行われることが多く、さほど忙しくない時期に調整して行われることが多いようです。日本では死と認識されてから約 1 週間以内には葬儀が行われますが、トラジャの地域では都合のいい時期に葬式の日程を調整し執り行います。加えて、トラジャと日本の葬儀の日程が違います。日本では基本的にお通夜、葬儀と 2 日間で行われています。しかしトラジャの葬儀は約 1 週間かけて葬儀をとりおこない、日本とは大きく葬儀の期間で差があることがわかりました。トラジャでは、日本と違い死に関しては入念に時間をかけて葬儀を執り行うものなのだと私は感じました。

2 つ目は死のとらえ方についてです。私はトラジャ民族の死のとらえ方に関して大きく衝撃を受けました。日本と大きく違います。日本では医師が死と判断したら「人が死んだ」と法的に判断されますが、トラジャ民族が「人が死んだ」と判断するのはお葬式を行う時なのです。日本人の常識では考えられないと思います。なぜなら、人が呼吸をしていないのに、動かなくなってから何週間、何カ月と経っているのに死と判断せず、お葬式を行わない限りその人は病人扱いとされているからです。私は人の死に関して何が「人が死んだ」という基準は国や地域によって違うということを知ったと同時に世界では無数の死のとらえ方があると思うと、グローバル化が進んでいる昨今、死に関してのグローバルスタンダードはないなと感じました。

3 つ目にトラジャの葬式で行われる「生け贄」についてです。無論、日本では基本的に人が死んだからといって「生け贄」を行うことは現在ありません。しかし、トラジャではあります。先ほど述べたとおり、トラジャのお葬式は約 1 週間行われ、毎日必ず水牛 1 頭以上、豚数頭を「生け贄」に捧げます。水牛、豚の「生け贄」にする方法が残酷です。簡潔に説明すると彼らは苦しみながら死にます。かわいそうです。かわいそうでした。これがトラジャの伝統だからと折り合いをつけて指をくわえて見ることはできませんでした。

最後にこのトラジャのお葬式に関して日本では経験できないものを見た私ですが、このトラジャの生活を体験できてよかったと思います。なぜなら、これは本物のトラジャの姿だからです。この本物の姿を通して勉強になることばかりで実りあるものであったのは間違いない事実であります。勿論、この Ex 期間中、すべてが勉強になることばかりで、それはトラジャの本物の姿を見たからです。トラジャの本物の生活を提供しているこの Ex これからも続けていき、より良い物にして欲しいと願っています。

『心の交流』

岡崎 崇志

私は今回のトラジャ EX で強く感じたのは「心の交流」の大切さです。そこで私は今回のトラジャ EX での「交流」について考えました。今回のトラジャ EX では、主に交流したのはハサヌディン大学日本語学科の学生、キリスト教大学トラジャキャンパスの学生、SADAN 村の村人、トラジャやマカッサルの小中高の学生、そして私達をずっとサポートし続けてくれたガイドのマルセル、サリーちゃん、バーバラさんです。私達はこのような人々と交流しましたが第一回の EX ということもあり、いくつか大きな問題がありました。一つ目は英語が全く通じない事です。大学の英語学科の学生でさえ簡単な英語がわからないような状況でした。二つ目はトラジャの人々は思った以上にシャイな人が多く、簡単な言葉（インドネシア語や英語）での交流も難しかったことです。三つ目は交流時間が短いことです。どの交流も単発で終わっており一日中現地の人と一緒に過ごすということがありませんでした。このような問題があったので現地の人々と交流することは困難でした。そこで私は自分なりに色々工夫してなんとか交流しようと思いました。例えば言語が通じないならジェスチャーや簡単なインドネシア語を使って話しかけてみたり、シャイな人には笑顔で挨拶をして隣に座り携帯を使って色々見せたり等、様々な方法を試しました。他のメンバーも同じように各々が工夫して積極的に交流し

ていたので私はすごく感心させられました。個人的にはみんなが現地の人々と交流するのに今できることを最大限やっていたと思っています。

ある晩そんな私達日本人に対してサリーちゃんが私にこんな話をしてくれました。

「今回のメンバーは日本人でも珍しい日本人が多い。こんなに積極的で仲良しな日本人を見たことがありません。トラジャの人々はこんなに大勢の日本人を見たことがなかったので最初は戸惑っていました。しかしみなさんが現地の人と交流しようとしたり、子どもと遊んだり、現地の人々のためにダンスや歌をしてくれたので出会った人全てがとても喜んでいます。私もみなさんががんばっているのを見て感動しました。私はこれこそが心の交流だと思います。言語ではなく本当に心のそこから出て来るものがあるから現地の人々もそれを感じてうれしく思っています。今回のメンバーは十数年の私のガイド人生の中でも最高の日本人です。」

私はこの話を聞いて泣きそうになりました。この後もサリーちゃんは私達が思っている以上にみんながトラジャの人々と心の交流ができていると語ってくれました。サリーちゃんの感謝の思いが本当に伝わってきました。

今回の EX は第一回目ということで様々な問題がありました。それは二、三年で解決できないものもあると思います。しかし私は十年二十年とトラジャ EX でサリーちゃんが語った心の交流を続けると、日本側もトラジャ側もお互いが努力するので困難な問題も解決できると思いました。来年もぜひトラジャ EX を行って、後輩たちにも心の交流をしていて欲しいと心から願います。

『生々しさの「美学」』

梅崎 智士

今回、トラジャ EX を通して、新しく芽生えた一つの価値観がある。それは、「生々しさの美しさ」という視点である。これは、トラジャ EX 中に行われた「葬式」に参加した際に、感じたものである。トラジャにおける葬式は、日本の静粛な葬式とは違い、お祭りのような空気を醸し出していたものであった。その中で、水牛が殺されることがトラジャの風習となっている。なぜなら、トラジャにおいて、水牛は殺すことは、水牛が死者を天国に連れて行くといったこと意味していたからである。また、その数が多ければ多いほど、その死者及び家族は「富んでいる」と認識されるという現状がある。また、その葬式の風習に従い、「水牛市」というものまで存在した。これは、水牛を売っている市場のことである。ここで、水牛を所有しない者は、水牛を購入し、葬式にて使うのである。いずれにしても、そのように考え、行動し、水牛は、葬式にて殺されるのである。

当初、私は、水牛が殺される場面を目の当たりにしたとしても、何も感情は芽生えないであろうと思っていた。つまり、驚きもせず、怖がりも気持ち悪がりもせず、ただ「ああ・・・死んだのだ」と思うだけでであろうと思っていた。確かに、実際、水牛が死ぬのを目の当たりにして、そのように思った。しかしながら、死んだ牛の顔、眼、流れ広がる鮮血。それらを見ているうちに、「きれい」と感じている自分がいることに気がついた。しかし、なぜこの時、「きれい」と感じたかわからなかった。

同様のことが、トラジャ最終日に行われた「フェアウェルパーティー」の準備の際にも感じられた。それは、生きている豚をその場で殺して、捌くという中で感じた。

豚は、縄で締め付けられ、まるで死を予期しているかのように騒ぎ立てていた。「さて、おれはまだ死にたくない」と言っているように、感じられた。口からはよだれが垂れ、より必死さを物語っていた。しかし、その豚の心臓にナイフは突き立てられた。断末魔が辺りを支配した。現地の子供でさえ、眼を覆っている。豚の口から、血が流れ出す。黒く濁った血だった。豚は、眼を見開き、体を痙攣させ、そして、死んだ。その瞬間は、一瞬だった。生から死に移り変わるその瞬間、それは何とも言えないくらい自然でまた、「きれい」だった。

また、死んだ豚が、捌かれ、腸や肺、内臓という部分が次々外に出されていった。その一つ一つが、「きれい」な宝石のように思え、また「おいしそう」と思えた。

その時、私は何故殺された水牛が「きれい」だったのか、何故この豚が「きれい」なのか分かった気がした。それは、「生」と「死」という、反する概念を目の当たりにし、有したからである。これが俗に言う「生々しさ」たるものであると思う。きれいなものだけでは、「生々しさ」は生まれない。汚いものだけでも、「生々しさ」は生まれない。同様に、善だけでも「生々しさ」は生まれない。悪だけでも、「生々しさ」は生まれない。二律背反する概念が生じるとき、本当に「リアル」を感じ、「生々しさ」が醸し出されるのであろう。これが、本当の「美」ではないだろうか？日本における整理整頓された「美」は「美」なのか？そのように感じたインドネシア・トラジャ EX であった。

『必要なものとは？』

川崎 康博

トラジャの人々は、医学的に「死」と判断されてもそれをすぐには死とはみなさない。その者は病人と位置づけられ、葬儀の日まで今まで通り家族と共に過ごすのだ。共に食事をし、共に寝て、生活を共有して過ごすのだ。日本とは違って、亡くなってすぐに通夜があり、葬儀が行われるということはない。トラジャの葬儀では、人々が水牛を捧げる。水牛は大きさ、毛並み、色などによって価値が決められており、裕福さの証でもある。その持ち寄られた水牛は、葬儀の場で殺される。この水牛の魂が亡き人の魂を神の所へと導いてくれるのである。水牛が多ければ多いほど、神の所までたどり着くのが速いのだとか。また、葬儀の日までは病人として家族と共にいた「亡き人」も、葬儀の時には棺に入れられた状態で部屋から運び出され、家族ともお別れとなる。この瞬間は家族の者にとって辛く悲しい時であり、私たちが見学させていただいた時も悲しみの声が聞こえてきた。

ところで、トラジャの人々はバカンスにお金を使うということをあまりしないようである。日本人であれば、一生懸命に貯めたお金を趣味や欲しいものを買うために使ったり、あるいは長期休暇を使って旅行に行くために使ったりする。しかし、トラジャの人々は水牛のために使う。普段の生活の中で、贅沢をするためにお金を費やすことはなく、葬儀の際の水牛に使うそうだ。そのため、葬儀の場でないと誰がどれほど裕福なのかは分からないらしい。この話を聞いて、「何が一番大切なのか？」、「自分にとって本当に大切なものは何なのか？」ということを考えさせられた。トラジャの人々は、自分が一番大切だと考えるものに向かって努力をするという姿勢を見せて下さった。その姿からは、日本という経済的に恵まれた地域に浸っている自分の生活がどれほどの無駄を生んでいるかとも考えさせられた。

その他にも言葉では表現できない様々なことを実際に聞いて、見て、触れて、感じることで学ぶことができた。この場をお借りしてトラジャの人々とトラジャという地に感謝を述べたいと思う。

『トラジャの死生観から』

池田 奈那

私がこのトラジャ EX で学んだことは、「生きるとは、死ぬことだ」という一見矛盾した事実であり、その事実が私の身の回りにも常に存在するということである。

トラジャに滞在して 6 日目、やっと私たちはお葬式に訪れる機会を得た。この日はトラジャに滞在したどの日よりも空が青くて、とても良い天気だった。式場に着くまでに 2 km 程の緩い山道を登った。くたくたになって辿り着いて最初に見たものは、さばかれている豚だった。もうほとんど肉の塊になっていたが、その横に豚の首があったので、さっきから鳴き声が聞こえていたうちの 1 匹だったのだと分かった。私たちはそこを横切り、式場の

中に入った。今回参加した葬式は平民の方のものだそうで、規模は確かに事前に写真で見えていたものよりは小さかった。しかしそれでも日本の葬式よりは遥かに大きく、私たち観光客を含めると 1000 人くらいは絶対にあの場にいたと思う。

時間が経ってしばらくすると、豚が次々と運び込まれてきた。ビービー鳴き叫ぶ豚もいれば、黙っている豚もいる。逃げようともがいているように見える豚も数匹いて、黒服に身を包んだ人の行列とそこに音楽と親族の泣く声とが合わさって、何とも言えない悲しさを感じた。水牛が式場の広場の真ん中に連れてこられた。私は振り返り血を浴びないかどうかを心配して、建物の奥に入った。

先に殺されたのは豚だった。参列者も観光客も見ている前で、首から出た血を竹の中に採られていた。後で親族が飲むらしい。そして水牛が殺された。一瞬だった。想像していたものとは違って、血はとても鮮やかで、綺麗だとさえ感じた。見ていても、私は何も辛くはなかった。儀式なんだととても自然に受け入れられた。水牛の魂に乗って、亡くなった人の魂は天に昇っていくというトラジャ族のアニミズム的思考は、神道というアニミズムをもった私たち日本人にも理解できるのかもしれない。目の前で死んでいった水牛や豚を見つめて、私は何を思ったわけでもなく、ただ無意識に目を閉じて手を合わせた。村に帰って、今までと変わらない夕方の光景を見ながら、私はあの時自分が何を祈って手を合わせたのかを考えてみた。それは“感謝”だった。『どうか安らかに。ありがとう。』水牛を見る私の気持ちはこれに近い。死んでくれたことに感謝。何だか変な気はするけれど、結局私たちは牛豚をはじめ、野菜や果物の命をも貰って生きている。

日本には「いただきます」と「ごちそうさまでした」という言葉があって、これは欧米の appetite とは違う、日本にしかない食物に対する感謝の気持ちを表す言葉である。とてもとても大切にしたい気持ちだと感じる。今、私がこうして生きていることに対して、家族や友人に感謝したことはあっても、食物にここまで感謝した日はなかった。生と死が限りなく近い、人間の営みを濃く残したトラジャ文化。今この瞬間も誰かが死に、誰かが、何かが生まれている。トラジャ文化は私に自分の生の裏側にある、大切なものに気付かせてくれた。私が生きるために無くなってしまったものがあり、そうして今私は生きているという事実を見つめ直し、改めてそのことに感謝したい。

トラジャ EX、大切なことに気付かせてくれて、ありがとう。

『交通の主役はバイク』

田尻 美佳子

9月6日インドネシア、デンパサールに降り立ってびっくり、バイクの多さ。ホンダ、ヤマハ、スズキ、カワサキなど日本ブランドのバイクで街はあふれていた。両親と子供 3 人の 5 人でバイクに乗っている人々もいて、3～4 人乗りはインドネシアでは普通にあるそうだ。バイク 5 人乗りは子供がいれば大丈夫らしい。でもさすがに大人 5 人で乗るのは無理だとか。道路は車やバイクのためにあるもので、歩行者はその隙間をやっと通してもらった状況だった。車の方もちょっとでも隙間があると頭をつっこみ割り込もうとし、ウィンカーは大きな通りから路地に入るようなとき以外ではほとんど使用されない。片側一車線の道路では対向車にお構いなしに追い越しをかける。対向車はライトを点滅させるものの速度は落とさない。無理やり先行車の前に出るような無謀運転なども日常茶飯事である。そのような車の隙間を埋めるようにバイクが通り抜ける。インドネシアはバイクが庶民の足であり、道路には車の 3 倍くらいのバイクが走っていた。そのため、道路を渡るときには細心の注意が必要だった。でも、皆で渡れば怖くない！はず・・・。

翌日飛行機に乗ってマカッサルへ。車で 8 時間かけてトラジャへ向かった。ガイドのマルセルさんに聞いた話で、インドネシアの平均的な国民がバイクを買うことは、ちょうど日本人が新車のクルマを買うことに相当するらしい。月収の 5～10 倍で、バイクを買うためにローンを組む。トラジャに行くにつれてでこぼこで不安定な道が続き車に酔った人も

結構いた。マカッサルではベモと呼ばれる自転車に座席がついている人力車のような乗り物が至るところに駐車しており、トラジャの市場附近でもベチャと呼ばれる、似たような乗り物、しかしこちらはバイクに座席がついているのがあった。また村に行くにつれて、ヤギを後ろのカゴに入れて走行中のバイクや、荷台に明らかに多すぎると思うくらいの人を乗せているトラックとかを見かけた。イナバじゃないんだし。何でもありのインドネシア、驚きいっぱいの1週間だった。

今回現地のローカルな乗り物に乗る機会はなかったのですが、いつかまた訪れた時にはぜひ一度乗ってみたい。

『オンガクハイダイナリ』

蔵本 司

音楽、服、観光 私の趣味の3本柱である。今回はそのうち音楽について、私は音楽が大好きでこの夏はスピーカーを持ち歩いてさまざまなところに出かけた。その中でもこのインドネシアでの音楽を通じた交流は私にとっては革命的であった。私はいままで国際交流の経験がほぼなく、かなり萎縮した状態でこのEXに臨んでいた。当然すぐにスムーズな交流ができるわけもなくついてしばらくはどこか一線ひいた状態で日々すごしていた。

「体」「言語」「積極性」という三つの面で私はとてもだめだめだったというのも原因のひとつであろう。環境の変化に体調を崩し、未熟な英語しか持たず、そして積極性も△。そんな私に残されていたのが「音楽」だったのかもしれない。最初は日本人参加者と歌ったり文化紹介でわずかに使っていたスピーカーは日を追うごとに使う頻度を増していった。現地の学生との交流で日本のアーティストはYUIやキロロなどいくつか向こうでメジャー化したものがあることも知り、それをまるで自分のことのように喜んだのを今でもよく覚えている。

そしてやはり強いバンドミュージック！最終日のフェアウェルで私の耳にとびこんできたGreen dayの「American Idiot」のイントロ。音のしたほうをみると現地の学生がアコギ片手に爪弾いていたのである。そこからは一瞬で意気投合。彼のプレイヤーからはマイケルジャクソン、BON JOVIなど世界的に有名なアーティストがズラリ。そこからはひたすら酒と音楽の数時間。あれだけ交流に萎縮していた私も気がつけば現地のみんなの輪に一人混じってDJ役をしていた。一緒に歌い、踊ったあの夜を私はきっと忘れないだろう。音を楽しんでこそその「音楽」。音楽が好きで本当に良かった。

私の場合は音楽になったがその人にとって特別な「何か」があるのならそこにもはや言葉などもんだいではないはずだということをこのEXに教えてもらった。

I LOVE MUSIC！

ISA音楽担当はインドネシアの地でも世界中のどこでも音楽となら生きていきます！



文化紹介感想

文化紹介感想（歌班）

岡崎 崇志

歌班では五輪真弓「心の友」、AKB48「ヘビーローテーション」、kiroro「未来へ」の三曲を小学校、中学校、結婚式、farewell party で歌いました。歌は特にどこで歌うということをおおきくおぼえてなかったのですが、臨機応変にいつでも歌えるように準備してました。感想としては、五輪真弓「心の友」がインドネシアでかなり有名で老若男女みんなが知っている歌だったのにびっくりしました。AKB48 と kiroro は普通に喜んでくれました。もしかしたらいきなり「心の友」を歌うように言われるかもしれないので、来年も「心の友」は絶対に覚えていったほうがいいと思いました。

文化紹介感想（遊び班）

月輪 光

遊び班は、折り紙、ハンカチ落とし、手押し相撲、手つなぎ鬼、割りばし鉄砲、だるまさんが転んだ、竹トンボ、歌舞伎を用意して行きました。どの日に、どれくらいの人数と遊ぶのかという予測が困難だったため、できるだけ多くの遊びが紹介できるように準備しました。実際は、マカッサルの高校、大学、トラジャでの大学生との交流の際に遊びを紹介しました。感想としては、体を動かす遊びが人気だったように感じます。手つなぎ鬼やだるまさんが転んだなど、現地の大学生もとても楽しんでいる様子を見て、英語もお互いカタコトながら、みんなのコミュニケーション能力の高さに感動しました。大人数が一緒になって参加できるゲームなどをもっと用意しておけば、さらに現地の人々も楽しんでくれたかもしれません。

文化紹介感想（ダンス班）

儀間 真和

今回ダンス班は、ハレハレユカイ、ウラジャ、ソーラン節、マルモリでした。しかし、ダンス班長儀間、現地にいくまで全然覚えてなくてすみませんでした。ビィフォーアの勉強会で男子裸になって練習したこと忘れません。

うちは最終日前日の FAREWELL PARTY で雨は降っていたけど、雨にも負けず現地の人も一緒になって ウラジャをおどれたことが1番印象に残っています。またソーラン節などにかんしても現地の人から暖かい拍手をいただきましたし、ダンスを通して少しは日本の文化というものを伝えられたかと思います。これをきっかけに日本の文化の興味をもってくれたら幸いです。

みんなで、衣装のことやダンスの振り付けなど話し合いをしたり、現地で急に踊らされたりと、いろいろあった初 EX。。まだまぶたの裏に焼き付いてます。本当にメンバーのみんなに助けられました。ほんとうにありがとう！！

北九州から心を込めて、儀間（＾＾）

文化紹介感想（スイーツ班）

武蔵 翼

フェアウェルパーティーで日本のお菓子とお酒を持って行きました。ねるねるねーるね、おかき、かりんとう、芋ケンピ、うまい棒、ポテチなどなどを持って行きました。

梅酒もトラジャの大人用に持って行きました。お菓子も梅酒もみんなに大変気に入ってくれました。大学生と飲むとき、日本でいつもやっている一気コールをかけてみました。意外とみんなノッてくれて、すごく盛り上がりました。向こうの大学生もヤシの実のお酒をふるまってくれました。

お菓子を持って行くのは大変やったけど、みんなが喜んでくれてうれしかったです

文化紹介感想（夕食班）

池田 奈那

夕食班は2人で十分。役割としては、日本では事前に調達しておかなければならないものをリストアップし用意すること（お金は参加者の人数で割って、後で徴収。今回は1人75円）。現地では主に指示にあたる。鍋やフライパンはあったが、包丁などは数が少なく切れも悪い。今回はカレーを作ったが、豚肉を皮から引きはがすときはなかなか力が要るので男手が必要だった。あると便利だったのはピーラー。70人分を作ったが、3〜5個あれば十分だと思う。今回の経験から、時間や調理器具の関係も考えると、やはり1つの鍋でできるものを選択することが望ましい。作った日本食の歴史などを紹介する機会はなかった。あればより良かったと感じる。



メンバー紹介

林 留美奈

北九州市立大学3回生・団長・るう



Exを終えての感想
本当に刺激的で、いろいろ考えさせられたExでした。死について、観光について、Exについて、ISAについて、交流について。そして最高の25人でした。みんな大好きだ
いっ☆

【人物特性】

- 軽さと重さのベストミックス女子。団長の中の団長。
- 船長
- しっかり者の変態、我らが誇れる団長
- 恥ずかしがり方がかわいい
- 仕事も身体も柔軟性抜群
- エロ団長
- 頼れる団長のおかげでレベルが10になりました♡（うふふ）
- 家訓が『しない！させない！作らせない！』シビアな教育をされた子。
- 実はかわいい乙女ww
- 恋愛番長
- 本能に従順な頑張り屋。
- 愛情たっぷり、愛嬌ばっちし
- ピュアで変態で気遣いのできる頼れる団長。
- 岐阜が生んだ変態団長
- 一回り成長した頑張り屋さん♡
- みんなをまとめた頼れる団長は私の愛人です。
- アホやけど頼れる団長☺
- すごく大人！いろんな意味で(笑)開脚美人。
- 誰にでもオープンな団長的存在
- 感動ウルルン、口癖「やあ～だあ～涙」お馬鹿で素敵な変態団長
- エロさ抜群！信頼度も抜群！（笑）
- 居心地抜群^^特に太もも。みんなのママ的存在の団長！
- エロ象金紋り

秋山 和俊

神戸大学4回生・副団長・あっきー



初プログラムということで、ISA 活動を根本的に見直すきっかけにもなり、かなりいろいろ学べました。また、トラジャ一緒に行けたメンバーは尊敬できる人ばかりでそこからいろいろ学べました！みんな最高！！

【人物特性】

- 風の又三郎
- 1等機関士
- 安定の頼れるおにいさん
- 頼れる緑のお兄さん
- 笛を吹く旅人
- たよりになります
- 塩ラーメン系さすらい旅人オンニ！
- エアロバイクの神。彼をエアロバイクに乗せたら誰も止められない。
- みんなに優しいお兄さん
- 英語、韓国語がぺらぺらな頼れるお兄さん♪
- みんなのお兄ちゃん
- タンクトップの似合うオールラウンダー
- オールマイティーかつときどき天然兄やん。
- 尊敬したくなるほどしっかり者
- 頼れるやさおもしろおにいさん
- まじめから笑いまで、なんでもこなす Mr オールマイティ。
- サロンと傘ぼうしがめっちゃ似合ってる！！
- 頼れるお父さん。オンニ？アッパ？
- セクシーで変態でおもしろい先輩
- 歌舞伎三人衆の一人。お兄さんの存在
- 全てを包み込む優しさで変態さ。あっきーの安定感パネェっす！
- タナトラジャマン！ 頼れる兄さん！ お世話になりました！
- あっきーさんは、その笑顔が素敵><面白くて頼りになるお兄ちゃん♪
- 風来坊と笠地蔵の境界

東 勇佑

甲南大学 3 回生・勉強会係・あずまっくす



感想をトラジャ Ex の流行語でまとめます。ぽっくんのイソギンチャクの絡み方が凄過ぎてオン・ザ・パンツ現象が起こってしまいました。「じょっしー(女子)」からはウンコナンと呼ばれ、これを見た僕は『茶番だ!』って思いました。

【人物特性】

- 不思議な化学反応式
- 甲板員 A
- 中身が見えにくいけど、実は良い人
- 謎さ∞
- 長身変人 MAX
- 初めて会うタイプの人
- ヨットで海に出た仲間。あとウミガメ父。
- 実は真面目なヘンタイ
- 下の話でもサラッと話してしまうかつこよくて優しいお兄さん！
- わさび的役割をもつ道産子
- やんちゃそうで思慮深い GAP 男！
- トラメンいちのジェントルマン
- 変態かつよく考える男。サッカーが上手い。
- 謎すぎる
- 謎なひと。結構えろいんですよ。
- 手加減を知らない彼はドSに目覚めた！！
- 心やさしいドS
- さわやかボーイ。
- トンコナン！ウンコナン！チンコナン！
- まじめな北海道のヤンちゃん的存在
- エロ目の MAX、本当は一途？笑。北海道から新星マークス！！
- 二晩を共にした仲 実はマジメ
- ただの変態じゃなかった><たまに優しいおっちゃん♪
- 有限と無限の間で揺れるオッパイマン

安保 夏絵

神戸女学院大学2回生・報告書係・あんぼ・ぶ～



今でもまだトラジャにみんなで戻りたいと心の底で願ってしまいます。24人のメンバー、ガイドさん、ホストファミリー、現地で話した学生や人々。彼らとの出会いを大切にしたい。そう思える EX でした。参加して本当に良かったです。

【人物特性】

- 生きるホットペッパー
- マリンアテンダントA
- 動く残飯処理マシン(笑)
- よく蚊にDゾーンを狙われる
- 文化も食事もういくらでも吸収しますあんぼです。
- 痩せたらかわいい！
- 食べてるとき、ほんま幸せそうな顔するよね～！すき！
- あんぼデラックス。
- 世界一おいしそうにいっぱい食べる女子大生
- どこに行っても食欲だけは衰えません！！
- マイナスイオンでさえ敵わない癒し効果
- 天然オーラでクッションのような癒しを施す娘
- 和製たればんだw
- 食いしん坊。好きな食べ物はナシ（米）。
- ぶ～
- 食欲旺盛なまず。
- でかい！強い！太い！ でも乙女な一面も・・・笑
- よく食べる！
- おなかが気持ちいい、いつも何か食べてる
- 一緒に居ると癒される坊。
- 食うそれが人生的存在
- ドキドキトクトク、トラジャ Ex 実は期待の恋心隊長！恋の行方は如何に？！
- じつはそんなにたべてなかった>< るみな妹
- 可愛い照れ屋な朝青竜でも、相撲はとれない、カロリーは取れる

池田 奈那

関西学院大学3回生・夕食係・なっつー



食べ物と命と、自分の生活とについて感謝し、またそれらに対して深く考えることのできる EX です。普段なかなか気付けないことに気付けた、そんな1週間でした。是非、血とか骨とか OK な人には行ってほしいと思います★ww

【人物特性】

- 毒りんごを食べなかった白雪姫
- 調理員
- 話しやすい大阪のおねえさん
- フォローのエキスパート！感動した
- 大阪のおばちゃんかつ神戸のお姉さん
- おかーさん
- 天然ふわふわ～なお姉様！
- ジョシー オブ ジョシー。
- やさしさ溢れるお母さんの存在☆
- 国民的な可愛いお嫁さん
- 頼れるしっかり者
- フィットネス番長
- 母のような温かさをもった大阪っ娘。
- trajaex1 のキュートガール
- 完璧主義のしっかり者！大阪のおばちゃん。
- 一対一で話すとマシンガントークになる一番女の子らしい女の子。
- トラジャ女子 N01 の女子力保持者
- 頼りになるお姉さん。
- しっかり者のお姉さん。ピュアな女の子。
- 関西のおばちゃんを担う的存在
- 清楚系に見えますか?! 実はお茶目ではっちゃけ隊！彼氏のカバンはスヌーピーです☆
- ななねえ！ はなしやすい買い物友達
- 理想の女の子でもありお母さんでもある ^^ 好きすぎる；；
- 疲れタワーーあねごと、おかん、時々おっさんー

梅崎 智士

関西学院大学3回生・報告書係・うめ



【人物特性】

- 小豆島の吹っ飛び少年
- 陽気な乗船客A
- 隣の家の犬 (by ももりさん ww)
- マルモリ踊ってるときかわいい
- 遊び心を忘れない逆コナン君
- オンとオフがはげしい
- 尾てい骨大丈夫？
- 特技が『たいあたり』と『セミヌード』
- 精神年齢5歳と実年齢の狭間を旅するトラベラー
- どこに行ってもみんなから愛される人気者＊
- いろんな意味で風雲児
- 盛り上げ隊長、ムードメーカー
- スター性◎
- コミュニケーションの天才。梅ちゃんに言語の違いなど関係ない。
- ぜんちゅう失敗おじさん
- 歌って踊って遊んで…頑張ってた！！
- ON→おもしろいお兄さん OFF→中年のおっさん。
- 24時間おもしろいことしてる
- 荷物の少なさに驚いた。ちょっとおねえっばいって思いました。
- 体力がある限りがんばる可愛いおじちゃん。
- ほぼ子供と変わらない実力を兼ね備える的存在
- え？臭い？だってお風呂で洗ってないもん。近づくな危険！
- まららー 個人的にはOFFもすき
- 周りの空気が一気に明るくなる！OFF うめさんは何か可愛い^^

今回、インドネシア・トラジャ EX に参加してみて、改めて「EXCHANGE PROGRAM」の素晴らしさを実感できた。今回は、1回目のトラジャ EX ということもあり、現地の方々はフィリピン EX の「フレンドリー」な状況とは違い、初め緊張と不信感に満ちたものであった。その上、英語が伝わらないという問題もあり、最初の2～3日間は、まともにコミュニケーションをできなかった。しかしながら、同じ時間と空間を共有することによって、徐々に当初抱いていた「緊張」と「不信感」を払拭され、川で一緒に遊んだり、言葉は伝わらないけれど語り合ったりすることができた。そして、最終日には別れを惜しむまでの仲になった。私はここで、初めから「緊張」と「不信感」のないフィリピン EX の凄さを改めて実感した。同時に、その歴史、そのような状況を作り上げてきた人々に深い敬意と感謝を払いたいと思った。また、トラジャ EX を通して、そのような「新しい歴史」に貢献できたことに深く感謝したい。

岡崎 崇志

甲南大学3回生・文化紹介係・ぽっくん



毎日腹痛に悩まされ二日目からおもらしした今回の EX はトイレの重要さをあらためて実感しました。水が流れる幸せ、紙で尻を拭ける幸せ、便座があるという幸せ…様々な幸せを感じました。みなさんも家に帰ったらトイレの神様に感謝しましょう。

【人物特性】

- 優しい胃腸キズ現地人
- 陽気な乗船客 B
- やっぱり似てるのかなあ(笑)
- インドネシアのスター！TAKASHI☆
- 行動はパワフルでも中身は意外とピュア
- 我が家のペット（犬）
- 変態!!!!(笑) ほんま変態＼(^q^)/
- 豊島くんの弟。
- 一番冷静かつ中立の凄腕 ISA メンバー
- インドネシアの女子学生を虜にした、スーパーアイドル☆
- 本当の優しさの意味を知っている
- チャラ男に見えるが思慮深いしつかり者
- インドネシアでのモテ度ナンバー1
- インドネシアではアイドル。ビートルズもびっくり。耳かきが上手い。
- OPP 全開
- やさ男。ちょう KY（くうきよめる）。
- 変態ぽっくんはいつも nip my nipple~ってってます☺
- インドネシアじょすい~に大人気♪
- 乳首星人！みんな乳首を攻めてあげて♪
- 俗にいう変態的存在
- Ex 1 の気使いマン☆いつも見えます！聞いてます！お茶目でおもろな乳首隊長！
- でいぎん 最盛期のぽっくんをみました
- 実はよく周りを見ている気配り上手なぽっくんさん♪
- チンチンを失った旦那

加藤 綾

同志社女子大学4回生・夕食係・あやばん



いやー遊びまくりました！！楽しかった。
価値観、笑い、仕事、いろいろな勉強になった夏でした。

【人物特性】

- 居酒屋の的確アドバイス姉さん
- 2等航海士
- 元気&勇気&テンション 100%
- 投げキッス♡
- 大阪のおばちゃんかつ京都のお姉さん
- 寝起きが本当に眠そう
- 噂通りのあやばんと参加できて嬉しす★だいすき！
- 寝るとすごく笑う先輩。
- 変化は自由自在！プロのカメレオン☆
- テンション MAX、お酒も OK、ISA のアイドル！
- 誰もトメラレナイ。本人もトマル気ナイ。そこがイイ。
- 溢れる元気娘。溢れた元気でこっちも元気に！
- トラジャの元気印
- スナックのママ並みのコミュニケーション能力。何事もハッキリしてる。
- やっぱりあやば〜ん
- いつでもパワフルおもしろい姉さん。私の嫁候補です。
- あやばん＝トラジャメンバーで一番おもしろかった人
- 一度寝たら起きない女、寝起き最悪、どこでも寝れそうな・・・。
- いろんな意味でセクシーな姉御！パワフルガール！
- パワーパフガールズの一員とのうわさもあるパワフル&パワフル的存在
- オンとオフ。Exにかかせないお祭り隊長☆彡
- いわずと知れた人 ステッキング
- 寝顔。恐ろしいほど可愛い><
- やろ？と言えば・・・やろうと言う。男だけ？いや女でも・・・

金元 大起

関西学院大学3回生・財務係・アニキ、だいき



100年に1度あるかないかのこのメンツ やばい！えぐい！おもしろい！
インドネシアが2m 日本に動いた気がする！

【人物特性】

- ワイルド体操のお兄さん
- 通信士
- 我らがアニキ
- インドネシア語の習得意欲がすごかった
- アニキという名にふさわしい頼れる男
- おさわり職人
- 子どもたちに大人気なあなたに嫉妬。私も人気者になりたいいいい
- なんかアニキ。
- 好奇心の多い頑張り屋さん
- 子ども達から絶大の人気☆インドネシア語マスター!!
- 積極性の塊
- 人を惹きつけ上手。子供を多数従える頼れる兄貴
- 現地交流の切り込み隊長
- 本当に頼れるアニキ。子どもに人気。タフガイ。
- 面倒見のいいあにき
- 子供に大人気のお兄さん。結構軽いノリ（笑）
- 子供に大人気なアニキ。将来いいお父さんになりそう。
- トラジャチルドレンのアイドルあにき
- 先生、おにいちゃんたまにお父さんって感じ。
- 子大好き☆面倒見のいい好青年♪けど強引なあにきw
- 子供が好き！でもお姉さんの方がもおっと好きです！甘えたいお年頃なの♥だって男の子だもん！
- ↑からの↓
- 子供達に人気☆良いパパになりそうだなと思う！
- 下心で成り、立つアニキ

川崎 康博

関西学院大学2回生・文化紹介係・ヤス



とにかく濃かった！いろいろ学んで、
たくさんの人と交流して、自分や身の
回りのことについて見つめ直す機会に
なった。Thank you very much!!!
(*^_^*)

【人物特性】

- かみかみレモン
- 甲板員B
- 安定の真面目キャラ。
- 新たなヤスが生まれました
- 冷静に状況をみつつ心のなかでは大はしゃぎ
- 期間中最もワイルドになった男
- スイーツ系男子★チーズケーキ美味しいよね〜♡
- なんか Kawasaki。
- トラジャで脱皮したヘンタイ
- 飲み物で例えると、カフェモカ
- 体育会系さわやかボーイ。
- 知れば知るほどおもしろい男
- サロンが似合う。インドネシアで一番焼けた男。
- EX で1 番キャラが崩れた
- 一皮むけた！誠実、真面目がモットーです
- 何かが崩壊していたやすくん。おもしろかったです。
- 巷で流行りのスイーツ男子
- 癒し系、優男。
- 癒し系男子！スイーツ系男子！疲れた時いつもあなたを見てました。
- 京都から出たいやさしい男的存在
- 知的なフェイスでやることはチャーミー♪次は任せた！次世代ボーイ！
- すこしこわれました
- うめさんとサロンと一緒にくるまってって何か感動した！男前になった♪
- おかされそうなお菓子屋さん

木下 陽介

関西学院大学3回生・広報&チケット係・きのびい



メンバーの濃さもそうですが本当に内容の濃い一週間でした。良い意味でカルチャーショックを受けることが出来ましたし、久しぶりに純粋な異文化交流ができた気がします。

【人物特性】

- ジョブズの愛弟子
- マリンアテンダントB
- 神様、仏様、きのびい様
- むちゃぶりにも応えてくださる
- はっちゃけました
- 「オラ白鳳」 オールマイティうらやましい。
- とにかく神様。脱いでも神様。
- 世界のどこにいても博識&ステキ☆アイドル
- ダンスは完璧！どんな時でもとっても頼りになる、みんなの神様☆
- 完璧系ロールキャベツ男子
- 格好良く賢い紳士。クールとは彼の為に生れた言葉。
- 頼りになる微笑の貴公子
- ハイパーメディアクリエイター。「おら、白鵬!」
- ドラえもんより凄い6次元
- 気づけばこの人が何かしらしてくれている。安定感
- 完全にキャラ崩壊を起こしてました。でもやっぱり神様や～～
- 影のムチャぶり担当
- よく分からない謎の神様。
- E xで一番壊れた人(*^*) 私たち女子の憧れ☆拝みます拝みます。
- ただの神的存在
- クールに決めてるかと思いきや、なんて面白くて可愛いのかしら！食べちゃいたい♥
- こんなにノリのいい神ははじめて
- 安心感漂う！みんなに無理やり開脚&襲われててキャーってなった><
- 宇宙から降って来て、顔面で着地する人

儀間 真和

北九州市立大学2回生・文化紹介係・ぎまちゃん、ぶ～



あの10日間が嘘のように帰ってきてからはつまらない日々を過ごしてます。みんなと過ごした10日間は私の25年の人生でも本当に濃い日々でした。こんなすてきな人々に出会えて本当に良かった、ありがとう、両親。

【人物特性】

- ハブに噛まれた今いくよ
- たまたま乗船してしまったただの酔っぱらい
- ふられたらはずさない安定感
- ザ・沖縄顔
- やってることはむちゃくちゃ。でもとっても心の器の広い人。
- たばこ吸ってるときの顔がおっさん
- ぎまぎまぎ～ま可愛いよおおおお（°▽°）!!!! おへそびょん。
- 彼が脱いだら懲役10年は堅いだろう…。
- 可愛い素直なおっちゃん♪ww
- 化粧も良く合う、キュートなフェイス♪
- 沖縄きってのジェントルマーン
- このキャラは病み付きになります。
- ダンディズム香る琉球男児
- 沖縄が生んだ、いじられおじさん。実はまじめで男前。
- 社長のマブダチ。観る者を虜にするぎまじっく！
- めっちゃ好きとしか言えない。おもしろいよ～
- ベビーフェイスぎまちゃん
- スウェット着たらお兄さん。
- どんな時でも日本語でのりきるアラサー！
- アイサーと言って近づいてきて人を巻き込んでいく怪物君的存在
- 実は感動屋のいじられ25歳。歳なんて関係ない！それは俺が証明してやる！
- もっとゆっくり話したーい 音楽に興味はないそうだけど><
- もう一人のぶ～。何だかんだ言って優しいぞ☆
- ああ！！たばこの灰が落ちそうって時の灰皿みたいな人

藏本 司

関西学院大学3回生・勉強会係・ボン



楽しく過酷なEXでした>< 皆さんにはほんとーに心配かけっぱなしでも一しわけなかったけれど心からいって良かったです！旅に出会いにみんなに感謝！

【人物特性】

- 動くスピーカー
- 音楽家
- 頼れる音楽担当
- スピーカーかつぐ姿が似合う
- 歩くDJ、歩くiPod。とにかく音楽といたらこの人
- 歩く音楽プレイヤー
- 音響担当・藏本
- きのぴと儀間の下に名前あるとかかわいそう。ぼんちゃんのキャラが引き立たない！
- 世界のどこでもおしゃれ研究家
- 音楽ならお任せ♪サロンもお似合い！
- センス抜群の黒メガネDJ
- 体調悪くても仕事は怠らないDJ
- ファッションと音楽の伝道士
- 元町でレコード屋営んです。ぼんちゃんのスピーカーが欲しい。
- 音楽は世界を救う
- 体調不良。だが周りを見てくれていた。
- 時代の最先端に行く個性派ファッションリーダー。
- 音楽命
- 音楽人って感じ。太鼓とバチが似合う。
- 音楽だいすっき♪ 似顔絵一番書きやすいぼんちゃそ☆
- 音楽の才能を買われ、太鼓を叩きまくるでかい人的存在
- 初海外、初Ex、本当によく頑張りました！最後の涙は宝物♪
- 音楽と言ったらこのお方^^お洒落なお父さんって感じ♪
- あんまり伸びないゴム爆弾

小阪 早希子

関西大学3回生・広報ML係・こやち



何もかもが新鮮だったトラジャ。メンバーに恵まれたおかげで、思いっきり満喫できました。ほんとうにありがとうございました！

【人物特性】

- 葦のような竹
- アホな乗船客A
- 素100%（裏がなさそう）
- 適応能力抜群の大阪人
- ナンバーワン〇っぱい
- 男子の前では下ネタ自重します
- バリのお面。ほんまに似てると思う。
- 武庫之荘の人。
- かわいいけど笑い声デカすぎ大阪女子♪
- バリのお面ではありません！
- 声が癒し、笑顔が癒し、二の腕が癒し。
- 腹筋・横隔膜の発達が著しいであろう
- こやち。ムードメーカー。照れるといつものこやちじゃない。
- インドネシアのお面w
- あなたはー、小阪ですか？バリのお面ですか？すき！
- このひとの周りはいつものにぎやかです
- あなたがいつも付けているバリのお面、どこで買えますか？
- 想像してたのと違ったw おもしろい、でもピュアな感じの女の子。
- どこにでもいる人w あどけなさが残る自由人☆
- 世界は私を縛ることができない的存在
- 一度笑い出したら止まりません！どんな話も全部楽しい♪ラブリーチャーミーなこやち★
- こやち！ ばわふるいいこ
- 本当に癒される^^「可愛いは作れる！デブは隠せる！」を共に唱えた♪
- 飛び込み前転を失敗する人

小林 実咲子

神戸女学院大学2回生・スイパ係・みさこ



帰国して時間たった今でも余韻から抜け出されへん～
このE xに、このメンバーでいられたことを光栄に思います！み～んなに感謝。本当にありがとうございました!!

【人物特性】

- 笑顔のコミカルダンサー
- 船のペットA
- 演劇部 ww
- お肉大好き肉食系アイドル
- みさこの隣が一番居心地いい
- ツインテールがかわゆす★ぎゅってしたい系女子。
- いい女の子だと思う。
- ダンスはピカイチ☆しっかり者の萌え系女子
- ダンスもばっちり！明るく、しっかり者の妹♪
- ダンスや声優という隠れた才能を持つ素敵女子
- ピュアな気持ちにさせてくれるフレッシュガール。
- 大阪が生んだダンシングクィーン
- 妹にしたい。思い切りがいい。妹にしたい。
- どのダンス踊らせても完璧
- ちゃきちゃきちゃきちゃきちゃきっちゃきっ！
- みんなの妹！負けるなみさこ！
- ダンスリーダーみさこ☆
- みんなを元気にしてくれる。面白い。かわいい。
- The☆女の子 けど恋愛観くるってる(*_*) 君に幸あれ♪
- 虫でも何でも軽く掴める的存在
- ナイスなバディなピュアガール！誰が開拓してくれる？
- ダンスうまし！
- 結構食べてたwwはきはきしてて頼りになります^^ 帰国日当日ミスチルのライブ行くほどタフっていう><
- 特技：踊り食い

瀬沼 里沙子

岡山大学4回生・文化紹介係・りこ



どんなプログラムでも、どんな環境でも、どんな場所でも、何が大事って一緒に時を過ごす仲間が一番大事だよね。それを本当に心から感じたトラジャでした。沢山の学びと楽しさがあり、刺激的な毎日の中で出来た絆を嬉しく思います！言葉があんなにも通じない世界で、心の会話ができたこと、さすがトラジャ Ex01 メンバー★だいすきです！

【人物特性】

- 岡山の野外活動
- 1等航海士
- 野糞推進委員長。みんなの野糞を最終日に処理してくれたらしいです。さすがっす！
- 三ツ星レストラン for 蚊
- とってもやさしくてとってもいじわるなお姉さん
- 下痢はウンチです!!!
- おもしろすぎる野グソ推進委員長。野グソできなくてすみません。
- トラジャ界の『村西とおる』
- 野〇〇隊長&ISAのアネキ！！
- 影の権力者!!野グソ推進委員会委員長。(←これは載せない方がいいのかな?)
- 世界一尊敬できる変態
- 超健康で元気で陽気なお姉さん。
- 規格外の気配り&下ねた
- 野〇ソ推進委員長。影の団長。エロス。みんなを見てるお姉さん。
- ドSな悪がき
- つつこみが秀逸。基本何でも出来るし、する人。
- 全国に名が知れ渡る●●●推進委員会委員長。素敵でした。
- ドSな野グソ推進委員会会長♥
- 『お母さん』って感じ。グループの名前づけや、格言などすべてが面白い
- 野ぐそ推進委員長！裏の支配者！素敵な先輩☆
- 魚をほぐしたら右に出る者はいない的存在
- すてきなお姉さま お気遣いに涙がちょろり
- りこさんのリコーダーの音色、某委員会、胸の出し方、全部好き。
- 麒麟さんが好きです。でもゾウさんの方がもっと好きです。

田尻 美佳子

長崎県立大学2回生・文化紹介係・みーちゃん



トラジャに参加して24人の素敵なメンバーに出会えてよかった。インドネシアではおいしいものいっぱい食べた！飲んだ！アスパラのスープ好き。

【人物特性】

- 全てが足りない桜井和寿
- 船のペットB
- 不思議ちゃん
- 常に幸せそうな顔で笑ってる
- 典型的な不思議ちゃん。でも、語学に対する探究心は最強。
- 男×女×みーちゃん○
- ティンカーベルの柄が素敵なパンツ女子。わたしもあれ欲しい。
- 『エロテロリスト。』
- ぷにぷに不思議女子
- 海外でも going my way! シュールな雰囲気 good ♪
- 「振り向いたらそこにいる。」
- 天然、予測不可能な言動で楽しませてくれる。
- アジアの純真
- みーちゃん イズ フリーダム。
- 自由人
- 後ろからぼてぼてついてくる。笑 便秘。
- おっちょこちょいな甘えん坊娘。
- ファッションセンスが半端ない
- マルセルといちゃいちゃ娘！
- マルセルというガイドの第二夫人的存在
- 又下から妖精さんこんにちは！かわゆい妹分（いやペット？）みーちゃん★
- 妹がいたら多分こんな感じ
- お腹触った時あ！仲間だ° 0° って思った！よくお菓子くれる良い人><
- きっといるだろう的な珍しい生き物

月輪 光

関西学院大学4回生・文化紹介係・つきー



ほんまあつという間やったけど、何より24人のメンバーと距離が近くなれたことが嬉しかったです。みんな色が濃すぎて、自分も何色か訳わからんくなりかけました。ほんとにありがとうー!!!!みんなとの再会が楽しみです!!

【人物特性】

- 真夜中のオーケストラ
- 2等機関士
- バス中の安定感ばねえっす。
- 笑顔がステキ! きょえええええ
- みんなを導く眩しいくらいの笑顔の持ち主
- つきーすまいる
- ケロケロケロッパに似てますよね。
- 『あんしんパパ。』
- 頼れる素敵なお兄さん
- 面白くて、頼りになるお兄さん☆
- 太陽みたいな笑顔で場を和ませる
- 機転がよく効き、ノリよく、とっさの振りに強い。
- ほんわかギタリスト
- タピオカハンター
- 絶対的な父オーラ。安定感!
- おっちょこちょいな甘えん坊娘。
- 変顔をよくする頼れる王子様。
- なんやかんやと一緒にアホなことしてくれるステキな先輩
- すごく真面目な方!? サラリーマンみたい
- 気のきく狂った人! (^)!! めちゃめちゃ面白くて頼りになる!
- オタクダンスが上手すぎて本物かと間違えるほど実力を持つ的存在
- 笑顔が無敵! 振られた話は絶対笑いに変わって見えます! みんな大好きつきー☆
- キャツキーザカッコーイ ヽ(´▽`)ノ タリコラー! まじで
- 笑顔にずっきゅんメロメロばっきゅんってなった!
- さあ!! 次の期待できる、次のひかる

豊嶋 弘樹

立教大学2回生・広報ML係・とよすい〜



自分たちが生活している空間とは違う世界に行き、その文化を目撃したり、現地の人々と交流したりすることで、いろいろな気づきを得ました。周りのメンバーにも恵まれました。意欲的なメンバーが多く、夜に自分たちの考えを語り合ったり、それぞれ積極的にガイドに質問していたり、現地の人々とより交流を求めようとしている姿が見られ、私も高いモチベーションでEXを送ることができました。普段、あまり頭を使うことがないのですが、EXでは常にフル稼働していたと思います。とにかくさまざまなことについて考えさせられるEXでした。初めてのEXでしたが、参加して良かったです。また、トラジャEX自体も第1回目のEXです。実際に参加してみて課題や改善点が見つかりました。より改良をして、来年のEXにつながれば良いと思います。

【人物特性】

- ボールド洗われたセーター
- 陽気な乗船客C
- カタコトがおもしろい
- ぽっくん×楽しんご=とよしい
- どどすこー
- どどすこすこすこ どどすこすこすこ
- 岡崎崇志と絶縁した男。
- 細い！スイーツ大好きな未知数男子
- いたずらにもやさしい笑顔をくれる、人気者！
- LOVE注入
- マイペースで周りを和ませる。
- 独特の空気を持つシティボーイ
- 金子貴俊にちょっと似てる、とひそかに思っている
- 本物のシティーボーイ
- ぽっくん2号。やらしい笑みの東京人。
- 変顔をよくする頼れる王子様。
- おとぼけ天然キャラ。何気に一番の自由人だった。
- 楽しんごとよしー
- 落書きされても抵抗せず受け入れる人、草食系男子。
- 癒し系草食男子☆ ぽっくんをきれいにした可愛い可愛い弟☆
- インドネシア人の子供にずっといじられてた的存在
- ドドスコスコスコドドスコスコスコ〜♪
- とっとよー！ 日本語かたことこと 日記がおもしろかった
- 地元のひととすぐ仲良くなれてた♪マイペースな癒し系^^
- >ぽっくん

原田 涼

岡山大学2回生・報告書係・りょー



みんなありがとう！
みんなだいすき！

【人物特性】

- きびだんごの甘酢かけ
- 船のペットC
- 涙をみてほんとに良いやつなんだなって思いました
- 涙もろさピカイチ☆
- 優しすぎる涙もろい少年
- 君はわたしの妹ポジションにおさまりました。おめでとう。
- 昔はナナメ45度の前髪が鋭かった。
- 紳士で可愛いくまさんのぬいぐるみ的存在♪
- 若いぜ19歳！自信たっぷりの弟キャラ☆
- （タカアンドトシの“欧米かつ”の言い方で）子猫かつ
- 感性の豊かさは棚田並み。
- 強靱な背筋と繊細な涙腺を持つ岡山男児
- 瞳がきれい。パスポートの写真がチャライ。
- 情に熱い漢
- 何かやたら若さを主張してくる。後輩キャラ。
- 草食系男子の皮を被ったチャラ男
- 泣き虫りょーちゃん
- チャラ男。涙もろい。ちょっと女々しい。
- 話が長い甘えん坊や☆
- 姿勢を崩さない男的存在
- そろそろ我慢の限界です>くたまりまくってたりません///
- 体強し 若さか・・・
- ジェントルマンだけどブラ外し名人>く
- ももりを狩るもの

疋田 桃梨

関西大学3回生・広報ML係・ももり



本当に学ぶことがたくさんあった Ex. でした！このメンバーの一人として、この第1回のトラジャ Ex. に参加できたことをほんまに嬉しく思います(^)/♡
みんな、だーいすき！あいしてる！

【人物特性】

- 姪っ子
- アホな乗船客B
- 男子票第1位\(^o^)/
- そのサイズが！かわいい！
- 身体はコンパクト。でも、エネルギーは無限大。
- 実はまじめ。でも中学生
- 『お兄ちゃん詐欺』のパイオニア。
- 天使の笑顔☆おもしろかわいい大阪女子♪
- いつも笑顔の癒し系妹キャラ☆
- NO.1は譲れない★国民的姪っ子
- 元気で構ってあげたくなる妹。
- みんなのアイドル
- 妹にしたいpart2。だんごが似合う。一緒にカラオケも行ってみたい。
- ISAのアイドル
- つばさの保護者。見た目は子供、中身は大人。
- 普段のかわいらしい声と真剣な時のオガチ声のギャップが萌えた
- 中国の富裕層で国民的姪っ子キャラ
- ファッショナブル、美声、彼女にしたい笑
- 不動のなんば一わん女子！ももちゃんレベルあっぷだぜ☆
- 大阪から連れてきた3歳児的存在
- 笑顔弾ける人気NO1トラジャ、ももたそ♡
- 3歳～20歳までTPOで歳が変化します
- 声とサイズ。交換してほしいくらい可愛い><むぎゅってしたくなる！
- 食材

藤野 大樹

関西学院大学4回生・勉強会係・だいき



第1回目のExに深く関わり、参加できたことを誇りに思っています。現地の人々、子供たち、ガイドのマルセル、サリーちゃん、バーバラ、阿部さん、トラジャメンバー。このExに関わってくれたすべての人に感謝。

【人物特性】

- 常夏のスコール男
- 落ち着いてる人だなんて思いました
- どんな時でも平常心っぽい
- 真の自由人。
- いまだによくつかめない
- イソギンチャクがカッコイイ先輩。
- ミステリアスなようで普通かもしれない御方
- いつでもどこでも頼りになるお兄さん☆
- 沈黙の貴公子
- 我が道を行く頼れる男。
- 癒し&フリーダム&櫻井
- 大樹の寝袋がとっても温かそうだった。川で風呂入る。
- おシャンディーイケメン
- 常識的な自由人。フィリピン愛好家。
- 他の人とは違う不思議オーラを放っています。
- 自由人
- あまり絡めなかったけど、頼れる男！って感じがしました。
- 祖自由人☆ 最初懂れてた素敵な先輩♪
- んっ？現地人？的存在
- トラジャを繋げた男、俺！
- ゾウのもののまねは一生ものです
- いそぎんちゃくをバナナでやるお方^^ゾウのもののまねまたしてほしいです
- 昔々あるところに必ずいそうな人

古屋 誠彦

神戸大学2回生・薬係・ふっちゃん



いやぁ刺激の多い Ex となりました。みんなのいろんな話を聞いてとても勉強になったし、自分の考え方を広げることができました。

【人物特性】

- かかりつけ医候補ナンバー1
- 船医
- 掘れば何かでてくるww
- ふっちゃん先生！診察お願いします！
- 笑いのセンスを内に秘めたお医者さんの卵。
- ギャップ！
- すべてがツボなお医者さん！ムヒありがとっ
- 『あー！気管支炎だね。』っていつも言ってた。
- 眼鏡がステキ☆ちょっと抜けたお医者さん
- 医学部在中の頼りになる薬係！
- ドクター・ダライ・ラマ
- 噛めば噛むほど面白い男
- ストーリーしりとりキング
- ノリの良さピカイチのドクター。顔に落書きされても起きさせない。
- トータルやばい
- 人気グループ、ミトコンドリアのVo。ちょうオモローw
- わたしの結婚したい理想の男性です。
- 「医学的に言うと～」のムチャぶりに付き合ってくれる心優しい医学生
- 外見と違った中身、面白い。
- おもしろすぎる医者のお卵！また会いたくなる存在☆
- 世界をも揺るがす恐ろしいポテンシャルを持つ男的存在
- え？俺コメディアンじゃないし〜♪医学部です（どーん！）
- 一番印象変わったかも はやく一緒に買い物いきたい
- 無茶ぶり救急班

武蔵 翼

関西大学3年生・スイパ係・つばさ



トラジャ EX 本当に参加してよかった。日本と全然違う環境で言葉もさっぱり分からなかったけど、トラジャの人々の温かさに触れてこの夏一番濃い一週間だった。今までは都会に憧れてたけど、トラジャのゆったりした生活にふれて、スローライフもいいなって思えた。

【人物特性】

- ノリノリのバドガール
- アホな乗船客C
- ALWAYS ハイテンション
- いつも元気いっぱい☆
- どこまでも飛んでいってしまいそうなテンションの持ち主。
- 女を捨てているなど。
- 小学生みたいなつばさが大好きだよ（笑）（笑）（笑）
- 『趣味は男のパンツ集めです！』っていう子。
- 可愛くてナイスバディのゲラ大阪女子
- どこへ行っても自分のペースは崩さない！
- 無邪気すぎる 21 歳
- 元気で動きがコミカル。
- すべらないオトメン
- アンガールズぐらいならやっつけられそう。男女の壁をよく超える。
- 黙ってればめっちゃ美人
- ちえみの子供。ゲラ。M。
- だれよりも笑うドMな変態娘。黙っていれば良いのに・・・
- すっぴん美人。明るくて元気いっぱいすぎる。
- だまっていれば可愛いのに・・・小汚い小学生！
- 多分どこにいても笑い続ける女的存在
- PCI（ぽっくん乳首いじり隊）隊員ナンバー 1 ☆彡
- どM ゲラ でも純粹
- めっちゃ美人^^んでもって純粹なところが好きー！！！！
- 女版クレヨンしんちゃん

森 貴大

関西学院大学4回生・勉強会係・モーリス



作り上げてる感がハンパなくて、常に5感を刺激された。本物に出会えたことに感謝。そして人との素晴らしい繋がりに感謝。

【人物特性】

- 航海日誌
- 芯をもっているひと。おもしろい。
- 非常用持出袋のおにいさん
- まじめモードとお笑いモードの切り替えが恐ろしくはっきりしている頼れる人
- やっぱりおもしろいです！
- ダブルチェックするも忘れ物しちゃうお茶目なわたしの伯父さん★
- とにかく、なんにもかもカッコイイ！最強の先輩。
- スイーツと健康を語るマッチョマン
- みんなに(笑)を届けてくれる、愛されるお兄さん♪
- 男らしいのかジョシイなのか未だ不明！
- 面白くて深い男。一緒にいると楽しくなる。
- もーりすの周りにはいつでも人が集まってくる。お笑い論の話が魅力的。
- 天才！こんな面白い人見たことない！！
- 常識的な自由人2。けっこう落ち着いている。
- 笑いの技術がすごいみんなの兄貴
- ももりのおじさん
- マッチョ、肉食系男子。イケメン？
- おもしろすぎるパパっ！深い話いっぱいできて尊敬☆
- 歌舞伎三人衆の一人。多分大阪で死ぬと宣言したお父さんの存在
- 麦わら帽子の似合う男！どこでも現地化はかります！
- 面白兄さん
- かっこいい><。初めてお会いしたタイプの方♡
- 機関車モーリス

ガイド紹介

Marcel (しゃちょー)



出会った瞬間「ビビッ！！！」ってなった。誰かに似ているゾ（；；°θ°；；）毎朝一番早く起きてみんなにお早うの挨拶を欠かさずしてくれてたパパみたいなお方。ティッシュ片手にトイレ（もちろん外だよ☆）行こうとしたら、「一人で恐くないやんな？な？」と声をかけて下さった。いつの間にか関西弁。しかも、やるときはやるしゃちょー！質問にも丁寧にこたえてくれたし、トラジャでは出かけるたびに詳しく解説をしてくれた。あ、最後に笑い方が独特。「ぶえええええへっへっ！！！」素敵♥

Sally ちゃん



Ex 期間中に別の日本人の方のガイドのお仕事が入っていて忙しかったにも関わらず、最後はまた戻ってきてくれた>＜。昔先生をしていたらしく、マカッサルで教え子さんに再会していた；；ホロリ。高校・大学訪問の際も司会をしてくれたり日本が大好きだと熱く語ってくれたりと本当に良い人だった。特技はリンパマッサージ。毎晩ソファで寝ながら揉んでくれた。えへへ^^ 本職は一体何だろう。

Barbara さん



お姉さんの存在。村の子たちと私たちの架け橋。そして、とっても心の優しいお方。女子トンコナン（宿泊施設）毎日メンバーと寝泊まりしてくれた時、私が寝ぞうが悪すぎて、蹴りまくってしまった。なのに！！「あ〜だいじょうぶ〜^^」内蔵破裂してないか心配。また、日本（名古屋）に住んだことがあるらしく、日本の食について楽しく話せた。手羽先ィィィ！！！！

参加者ランキング



頼りになる！

第1位 るみな 9票
第2位 りこ 8票
第3位 きのぴい・つつきー6票



ギャップがあった人

第1位 あずmax 6票
第2位 ふっちゃん 5票
第3位 うめ 3票

弟

第1位 りよー 10票
第2位 とよすい 3票
第3位 ヤス 2票

妹

みーちゃん 10票
みさこ 3票
つばさ 2票



面白い人

第1位 もーりす 12票
第2位 うめ 8票
第3位 ふっちゃん 5票

人気者

第1位 ぼっくん 13票
第2位 ふっちゃん・うめ 5票
第3位 ぎまちゃん 4票



サロン&ショールが似合っていた人

- 第1位 あっきー 8票
 第2位 ぼん 7票
 第3位 ふっちゃん 5票 (ダライ・ラマ)



インドネシア&トラジャ語マスター

- 第1位 あにき 14票
 第2位 るみな 6票
 第3位 あっきー 5票



♡恋人にしたい人♡

- 第1位 ももり 5票
 第2位 ふっちゃん 4票
 第3位 なっつー・もーりす・るみな・りこ 3票

お父さん

- 第1位 もーりす 8票
 第2位 つっきー 6票
 第3位 あっきー 5票

お母さん

- りこ 13票
 なっつー 11票
 あやばん 4票



童心を忘れていない人

- 第1位 うめ 14票
 第2位 アニキ 4票
 第3位 ぎまちゃん 3票



古屋 誠彦の勝手に対決させま SHOW！！

(ゆるさ部門)

トヨスイの空気のゆるさ vs ぽっくんの肛門のゆるさ

*東京人とは思えないゆったり感をもつトヨスイ。そして生きるレジェンドぽっくんさん。

(メロメロ部門)

ナナちゃんのツンデレぶり vs キノピーの腹筋

*トラジャのアイドルナナちゃんの笑顔にみんなメロメロ。キノピーの腹筋は健在だった。

(癒し系部門)

ツッキースマイル vs 寝そべる儀間ちゃんとあんぼ

*BANDAI から儀間ちゃん&あんぼの抱き枕が発売されるらひーよ。

(〇〇力部門)

桃梨の歌唱力 vs 兄貴のパパ力

*モーリスが桃梨さんの歌に聞き惚れている姿がとても印象的w。 兄貴はもはや父。

(キレキレ部門)

美沙ちゃんのダンスのキレ vs ヤスの真夜中大喜利のキレ

*ヤスの「やらしくないけどやらしく聞こえる言葉」=>「モーニングショット」は秀逸w

(ぎりぎり部門)

インドネシアの車間距離 vs アヤパンの下ネタ

*ヤシの実ジュースのくだりは完全アウトだけでもw

(ワイド部門)

マルセルの顔の広さ vs モーリスの守備範囲の広さ

*宗教の話からスイーツの話までカバーするモーリスの守備範囲は半端ないぞ。鍛えあがった肉体とは裏腹にハートはかなりジョスイーw。

(安定感部門)

きのぴーand ナツのツーショット vs ミーゴレン

*さながら夫婦のようです。ミーゴレンにはずれなし。

(ギャップ部門)

涼ちゃんのパスポート写真 vs こやちの恋愛トークでのピュアぶり

*涼ちゃんが一番とんがってたときに撮ったものらしいw。こやちの本気デレに萌えw

(広がる部門)

るみなの開脚 vs あっきーのトークスキル

- * るみなの開脚は見事の一言。ただし場所を選びましょう。笑
- * あっきーはトークの巧みなキャッチアンドリリースでどんな話も広げてくれるぜえ。

(ベストマッチング部門)

ミーちゃんと妖精パンツ vs マルセルとバナナ

- * こやちの腹筋を破壊した妖精パンツを履きこなすのはミーちゃんだけだな。笑

(トラジャの夜に響き渡る部門)

ボンちゃんミュージック vs マルセルの高笑い

- * ボンちゃんミュージックはもはや必要不可欠。そしてマルセルの笑顔も。

(かくし芸部門)

大樹さんの寝袋 vs 東 max の手品

- * 想定外のトラジャの寒さに唯一対応した寝袋！とよすいを翻弄しつづけたマックス手品。

(低部門)

梅ちゃんのオフ時のテンション vs 翼の笑いの沸点

- * すべっているときも翼さんだけは笑ってくれるからほんとにありがたかったです。笑

(格言部門)

「下痢もうんこです」 b y リ〇推進委員長 vs 「トラジャにう〇こを残してきた」

- * 「下痢もうんこです」はおなかを壊すたびに思い出しそう。w
- * 「トラジャに～残してきた」はトラジャで食べたものをトラジャに残してそしてそれが肥料になりまた作物を育み・・・となんか生態系の本質を垣間見たような気分させる言葉。全然ちゃうんやろうけど笑。



持ち物リスト

・ぜったいいるもの

重要度 S

- ☐ お金：参加費、ビザ代、ポケットマネーなどなど
- ☐ パスポート：これがないと始まりません
- ☐ しおり
- ☐ 文化紹介で使うもの：スイパのお菓子、おりがみなど
- ☐ Tシャツ：現地で購入も可
- ☐ 長袖のもの：トラジャの夜は冷える！長袖着てる人がうらやましかった
- ☐ カメラ：充電器も！
- ☐ 筆記用具
- ☐ ズボン：女性は短くてもひざ上。露出が少ないように。ロングスカートOK！
- ☐ 下着：川で洗濯嫌な人は1週間分もってくるといいか
- ☐ サンドル：クロックスが一番楽かも
- ☐ タオル：圧縮して最低3枚くらいは
- ☐ 洗面用具：シャンプー、リンス、ボディーソープ、洗顔料
- ☐ 虫対策用品：100箇所以上かまれた人もいます
- ☐ 歯磨きセット：虫歯対策！
- ☐ ホテル予約やチーケット印刷したもの：これないと野宿になりますよ

・絶対いるもの

重要度 A

- ☐ 懐中電灯：トラジャの夜は暗い。トイレが寝るところから離れているのでないと危険
- ☐ 日焼け止め：日中のインドネシアは暑い！
- ☐ 変換プラグ：ないと充電できない。誰かが持ってくるとは限らない！
- ☐ 汗拭きシート類：外で手をきれいにしたくなる場面も多々。
- ☐ 手帳：説明されることが多いのでメモがとれると便利

・あるといいんじゃないかな

重要度 B

- ☐ 水着：川で泳げるし、アフターで泳ぐ人も多いはず
- ☐ サングラス：おしゃれに日光対策
- ☐ 日本のもの：話のネタにでも
- ☐ 制汗スプレー：僕は多用しました

編集責任者：報告書係 梅崎 智士
安保 夏奈
原田 涼